

2023年度 建築積算士試験 【二次試験】

問題 I-1 「建築積算士ガイドブック」、「建築数量積算基準」および「建築工事内訳書標準書式」に従って、下記の躯体数量集計表をもとに細目別内訳の①～⑤の数量および⑥～⑩の金額を求め、解答用紙の所定の欄に記入しなさい。

なお、鉄筋・鉄骨の数量は所要数量を記入することとし、鉄骨によるコンクリートの欠除は考慮しないこととする。

躯体数量集計表

名 称	摘 要	設 計 数 量	単 位
普通コンクリート	Fc=30N/mm ² S-18	86.45	m ³
普通合板型枠	地上軸部	299.39	m ²
異形鉄筋	SD295A D13	62.84	t
H形鋼	SS400 H-150×150×7×10	34.23	t
アンカーボルト	SS400 M20 L=500	75	本

細目別内訳

名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額 (円)
普通コンクリート	Fc=30N/mm ² S-18	①	m ³	19,800	⑥
普通合板型枠	地上軸部	②	m ²	5,800	⑦
異形鉄筋	SD295A D13	③	t	120,000	⑧
H形鋼	SS400 H-150×150×7×10	④	t	125,000	⑨
アンカーボルト	SS400 M20 L=500	⑤	本	310	⑩

問題 I-2 「建築積算士ガイドブック」、「建築数量積算基準」および「建築工事内訳書標準書式」に従って、下記の種目別内訳の⑪～⑫の名称を解答用紙の所定の欄に記入しなさい。
また、⑬～⑮の金額を算出し、解答用紙の所定の欄に記入しなさい。
ただし、⑬～⑮は、表-1、表-2、表-3を用いて算出し、金額は千円未満を切り捨てること。

種目別内訳書

名 称	摘 要	数量	単位	金 額 (円)		
直接工事費						
I 事務所		1	式	4 8 0	4 8 3	0 0 0
直接工事費 計				4 8 0	4 8 3	0 0 0
⑪						
I 共通仮設費		1	式	⑬		
II 現場管理費		1	式	⑭		
III ⑫		1	式	⑮		
⑪ 計					—	
合計 (工事価格)		1	式		—	
消費税等相当額	10%	1	式		—	
総合計 (工事費)		1	式		—	

表-1 共通仮設費率

直接工事費 (円)	共通仮設費率 (%)
400,000,001 ～ 500,000,000	3.93
500,000,001 ～ 600,000,000	3.71
600,000,001 ～ 700,000,000	3.54
700,000,001 ～ 800,000,000	3.40

表-2 現場管理費率

純工事費 (円)	現場管理費率 (%)
400,000,001 ～ 500,000,000	10.11
500,000,001 ～ 600,000,000	9.25
600,000,001 ～ 700,000,000	8.59
700,000,001 ～ 800,000,000	8.06

表-3 ⑫ 率

工事原価 (円)	⑫ 率 (%)
400,000,001 ～ 500,000,000	10.85
500,000,001 ～ 600,000,000	10.59
600,000,001 ～ 700,000,000	10.37
700,000,001 ～ 800,000,000	10.18

I -1

躯体数量集計表 → 細目別内訳

名 称	摘 要	数 量	単 位	解 説
普通コンクリート	Fc=30N/m㎡ S-18	① 86.5	m³	割り増し無し、小数点第2位を四捨五入し小数点以下第1位 86.45 → 86.5
普通合板型枠	地上軸部	② 299	m²	割り増し無し、100以上の場合は整数とする 299.39 → 299
異形鉄筋	SD295A D13	③ 65.4	t	4 %の割り増しを行った所要数量を計上 62.84×1.04 = 65.35 → 65.4
H形鋼	SS400 H-150×150×7×10	④ 35.9	t	5%の割り増しを行った所要数量を計上 34.23×1.05 = 35.94 → 35.9
アンカーボルト	SS400 M20 L=500	⑤ 75	本	設計数量を計上

細目別内訳

名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額 (円)
普通コンクリート	Fc=30N/m㎡ S-18	① 86.5	m³	19,800	⑥ 1 712 700
普通合板型枠	地上軸部	② 299	m²	5,800	⑦ 1 734 200
異形鉄筋	SD295A D13	③ 65.4	t	120,000	⑧ 7 848 000
H形鋼	SS400 H-150×150×7×10	④ 35.9	t	125,000	⑨ 4 487 500
アンカーボルト	SS400 M20 L=500	⑤ 75	本	310	⑩ 23 250

I -2

種目別内訳

名 称	摘 要	数量	単位	金 額 (円)
直接工事費				
I 事務所		1	式	480 483 000
直接工事費 計				480 483 000
⑪ 共通費				
I 共通仮設費		1	式	⑬ 18 882 000
II 現場管理費		1	式	⑭ 50 485 000
III ⑫ 一般管理費等		1	式	⑮ 58 229 000
⑪ 共通費 計				—
合計（工事価格）		1	式	—
消費税等相当額	10%	1	式	—
総合計（工事費）		1	式	—

⑪	共通費	
⑫	一般管理費等	
⑬	直接工事費 × 共通仮設費率	共通仮設費
	480,483,000 × 0.0393 =	18,882,981 千円未満切り捨て→ 18,882,000
⑭	直接工事費 + 共通仮設費 純工事費	
	480,483,000 + 18,882,000 =	499,365,000
	純工事費 × 現場管理費率	現場管理費
	499,365,000 × 0.1011 =	50,485,801 千円未満切り捨て→ 50,485,000
⑮	純工事費 + 現場管理費 工事原価	
	499,365,000 + 50,485,000 =	549,850,000
	工事原価 × 一般管理費等率	一般管理費等
	549,850,000 × 0.1059 =	58,229,115 千円未満切り捨て→ 58,229,000

2023年度 建築積算士試験 【二次試験】

問題Ⅱ 図面Ⅱ-1からⅡ-5までについて、以下の1～7の設計数量(鉄筋は長さ)を「建築積算士ガイドブック」および「建築数量積算基準」に従って計測・計算し、解答用紙の所定の欄に記入しなさい。

鉄筋のフック、定着、重ね継手については、図面Ⅱ-1共通配筋図を使用し、鉄筋径の倍数長さは、右記の表を使用しなさい。

解答は、小数点以下第3位を四捨五入して、小数点以下第2位までを記入しなさい。

1. 基礎	F2	[X2通り、Y1通り]	1か所
2. 基礎梁	FG1	[Y1通り、X2～X3通り間]	1か所
3. 2階柱	C1	[X1通り、Y2通り]	1か所
4. 2階大梁	G2	[X1通り、Y1～Y2通り間]	1か所
5. 2階小梁	B1	[Y1+2750通り、X1～X2通り間]	1か所
6. 1階壁	W18	[Y1通り、X1～X2通り間]	1か所
7. R階床板	S1	[X1～X2通り、Y1～Y1+2750通り間]	1か所

特記事項

- a. 図面の○印は計測・計算の対象部材を示す。
- b. 定着および重ね継手のフックは無しとする。
- c. D19以上の鉄筋は圧接継手とする。

使用材料

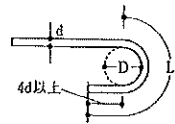
コンクリート	使用区分	コンクリート設計基準強度
普通コンクリート	躯体全般	24N/mm ²

鉄筋	規格	種類	径	継手
異形鉄筋	JIS G3112	SD295A	D10、D13、D16	重ね
異形鉄筋	JIS G3112	SD345	D19、D22、D25	圧接

鉄筋の断面表示

異形	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29
記号	●	×	∅	●	○	⦿	⊗

柱・梁鉄筋フック長さ (単位：m)

(1) 曲げ角180° の場合 	呼び名に 用いた数値 d	SD295A, SD295B SD345
	10	0.11
	13	0.14
	16	0.17
	19	0.23
	22	0.27
	25	0.30
	29	0.35

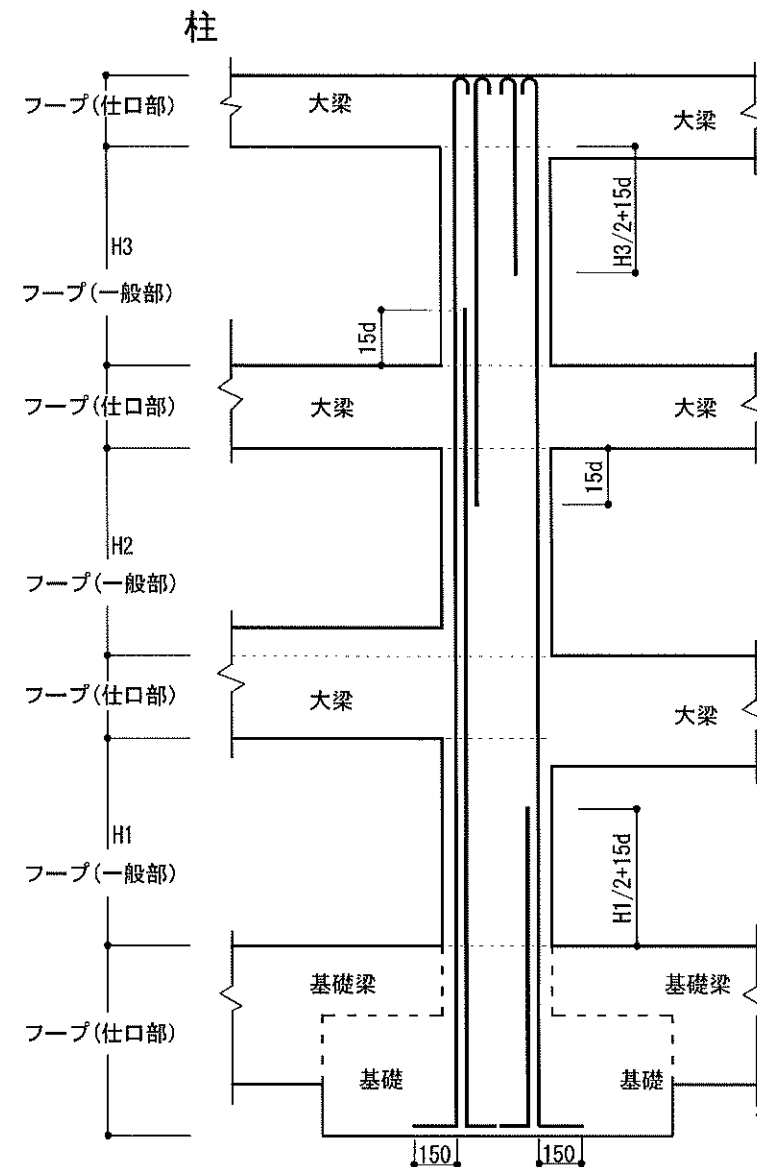
鉄筋径の倍数長さ (単位：m)

呼び名に用いた数値 倍数	10	13	16	19	22	25	29
10d	0.10	0.13	0.16	0.19	0.22	0.25	0.29
15d	0.15	0.20	0.24	0.29	0.33	0.38	0.44
20d	0.20	0.26	0.32	0.38	0.44	0.50	0.58
25d	0.25	0.33	0.40	0.48	0.55	0.63	0.73
30d	0.30	0.39	0.48	0.57	0.66	0.75	0.87
35d	0.35	0.46	0.56	0.67	0.77	0.88	1.02
40d	0.40	0.52	0.64	0.76	0.88	1.00	1.16
45d	0.45	0.59	0.72	0.86	0.99	1.13	1.31
50d	0.50	0.65	0.80	0.95	1.10	1.25	1.45

(注) 1. dは異形鉄筋の呼び名の数値を表す。

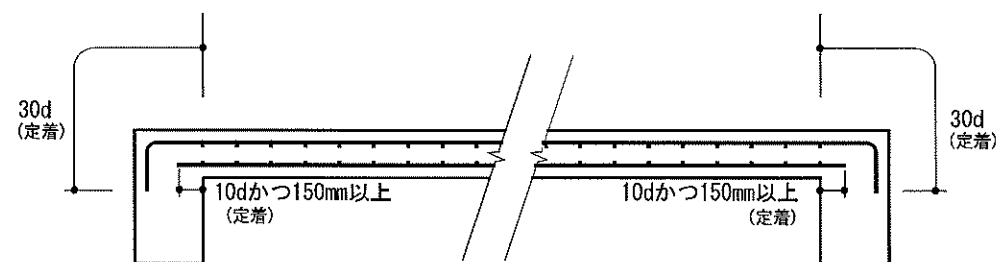
図面Ⅱ-1

共通配筋図



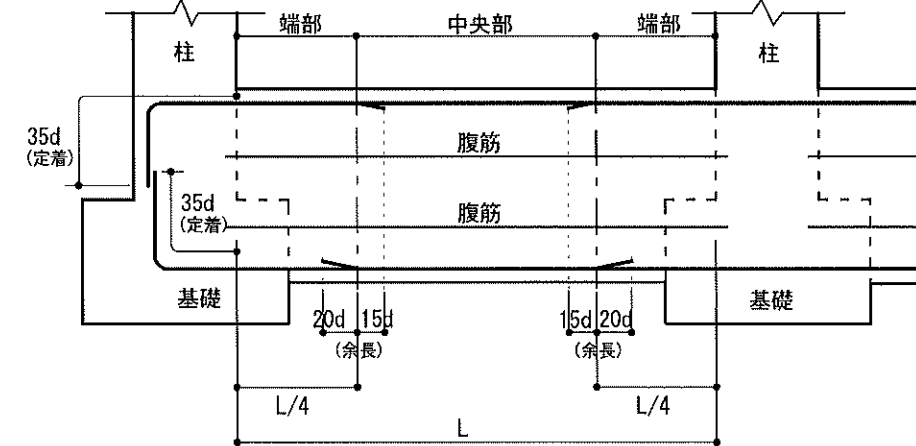
- ・ 最上階柱の柱頭部主筋のすべてにフックをつける。
- ・ 柱に取り付く梁に段差または梁高さに差がある場合、フープ(帯筋)の範囲は、その柱に取り付くすべての梁を考慮して左図による。

床板

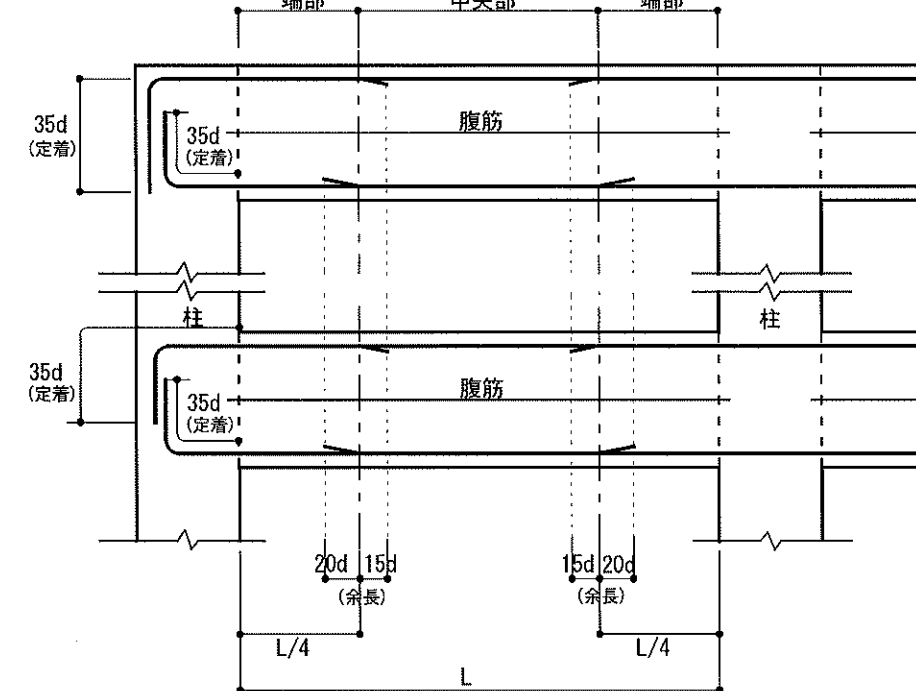


- ・床筋の継手長さは35dとする。

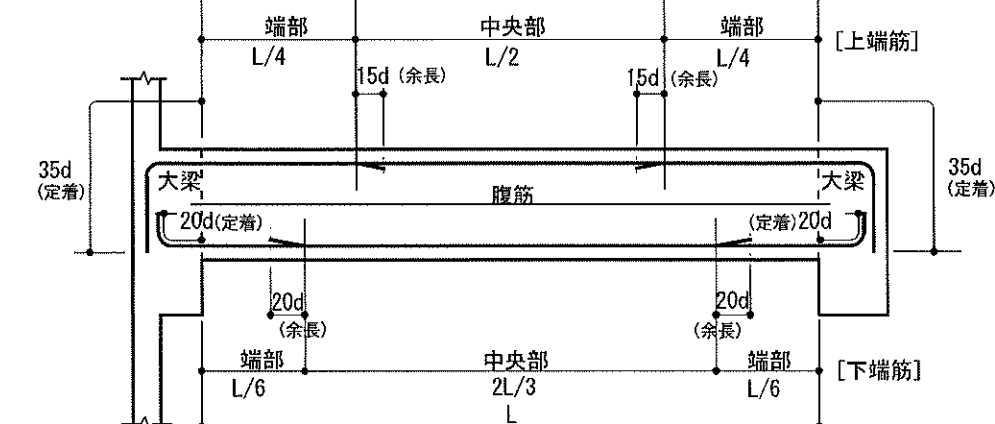
基礎梁



大 梁

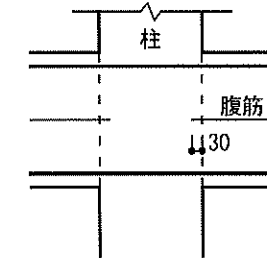


小 梁



梁 腹筋

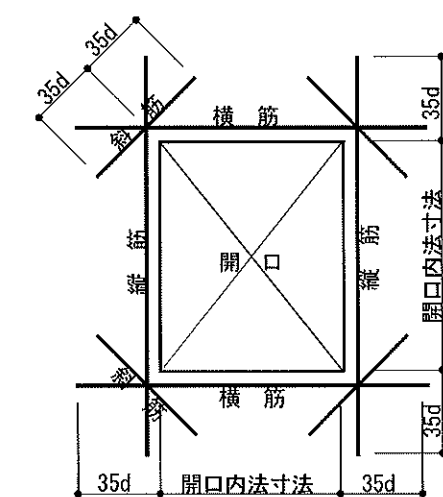
- ・腹筋の継手長さは、150mmとする。
- ・腹筋の余長は、30mmとする。



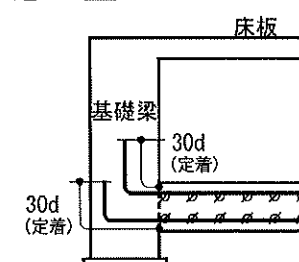
壁

- ・壁筋の定着長さは、縦・横とも
30dとする。継手長さは35dとする。

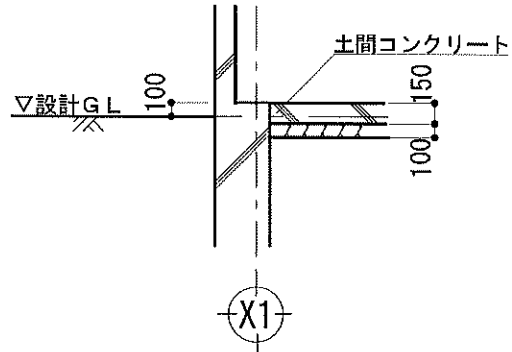
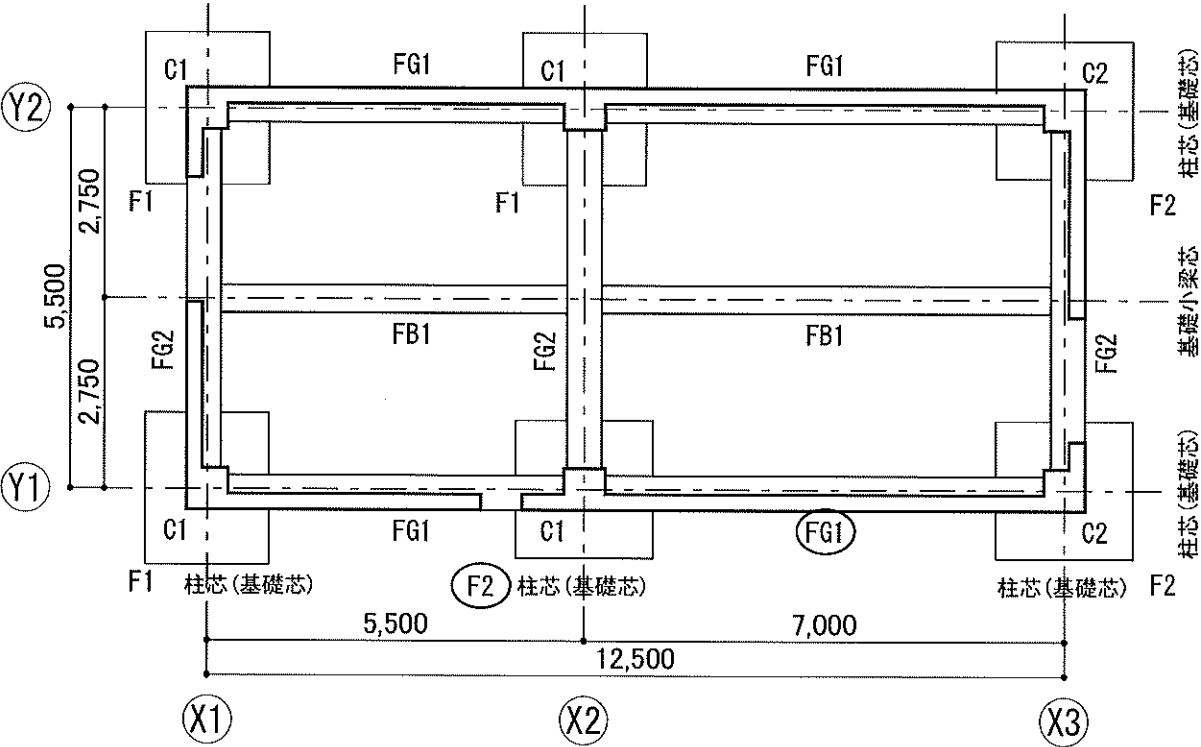
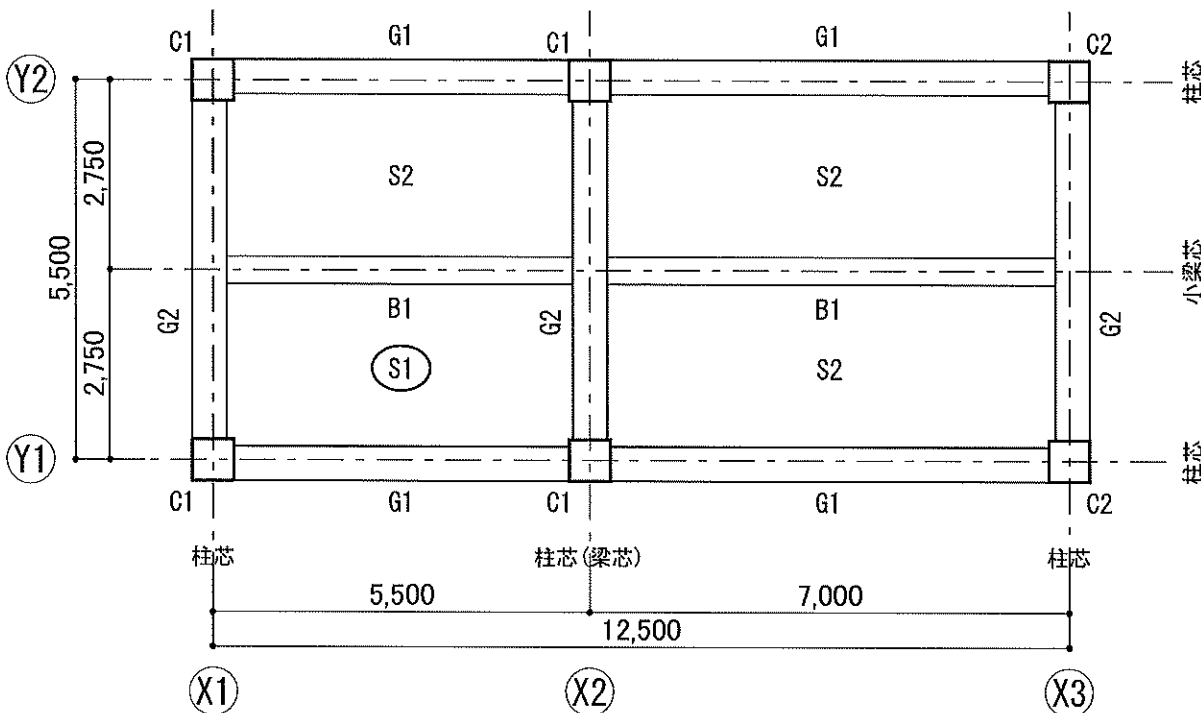
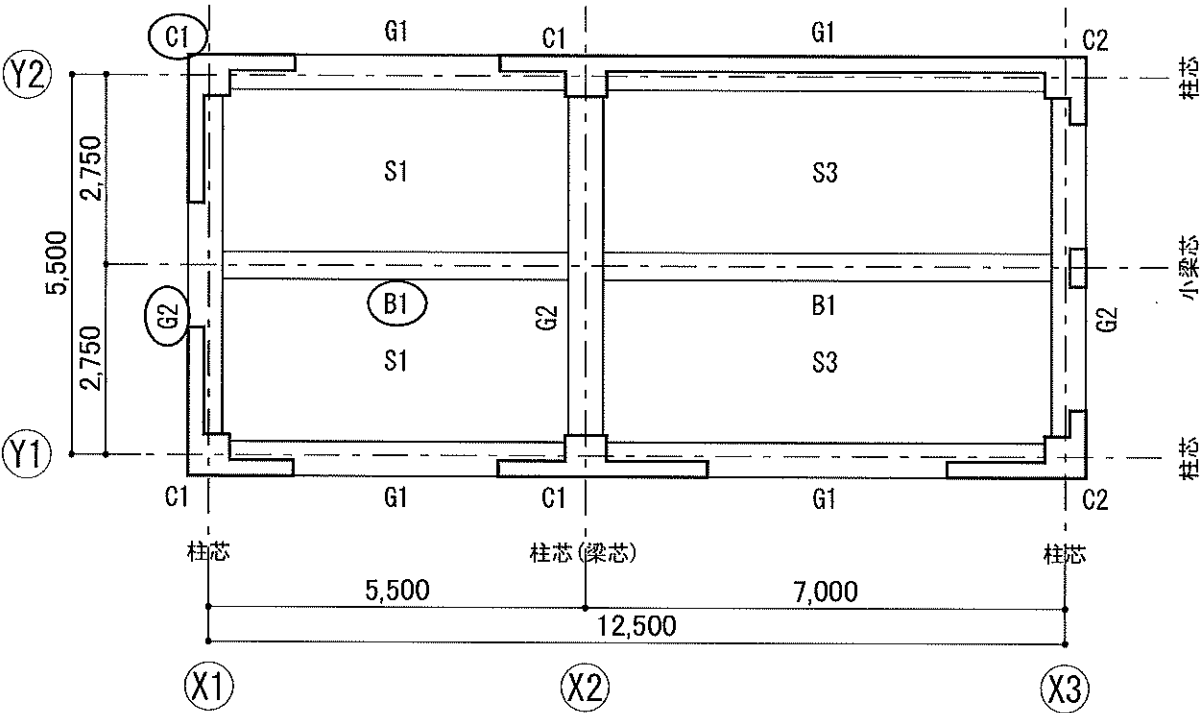
壁 開口補強



底盤

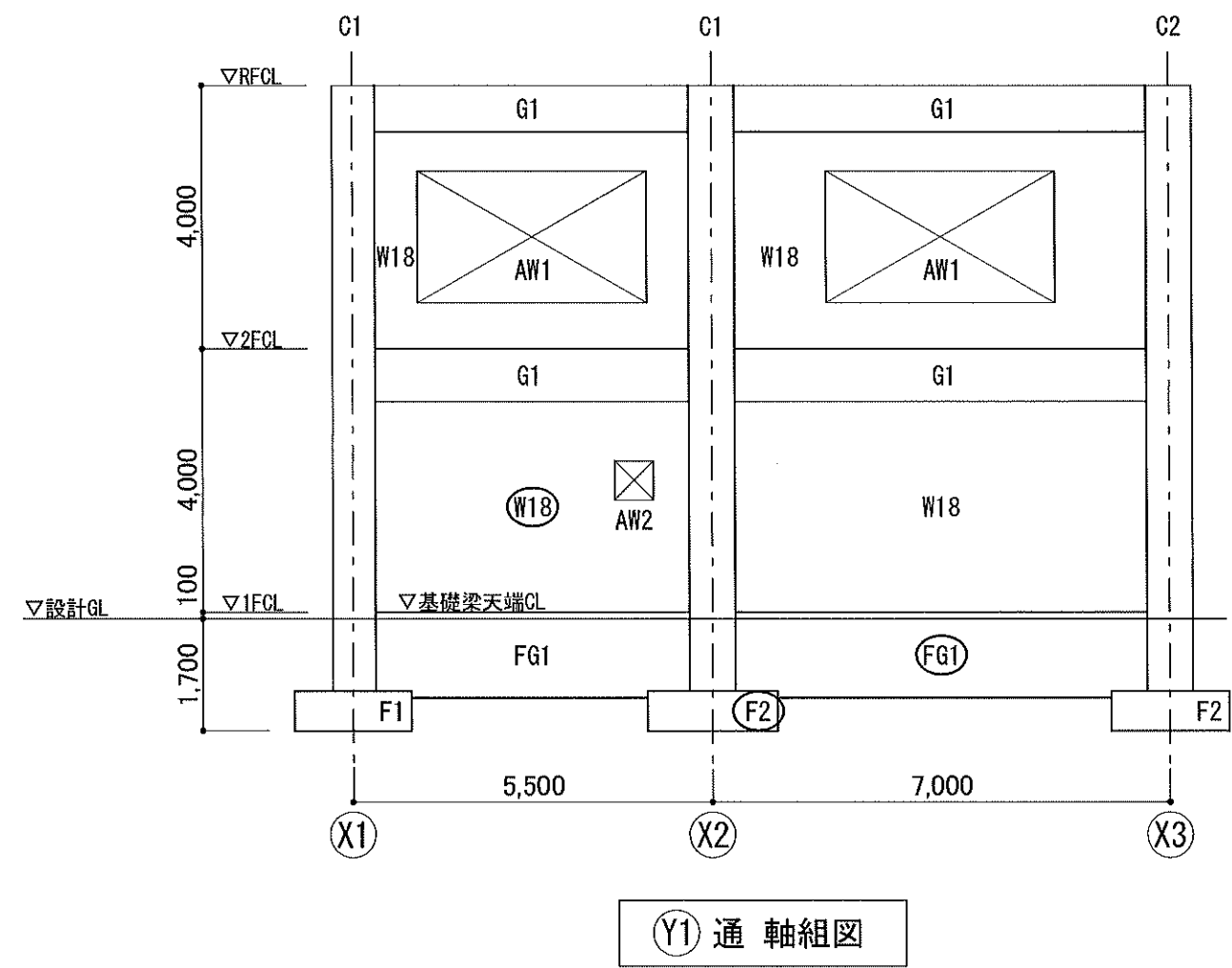
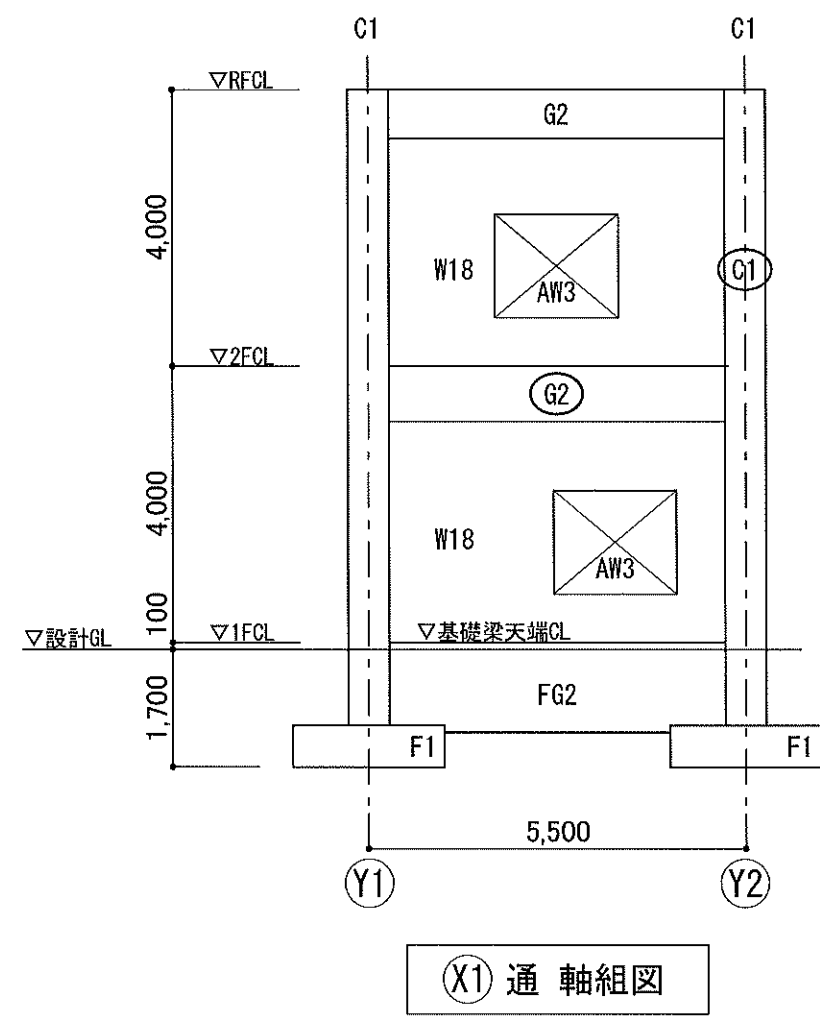


図面Ⅱ-2



土間断面詳細図

図面Ⅱ-3



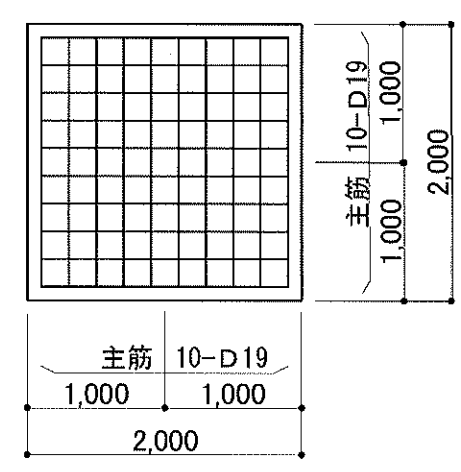
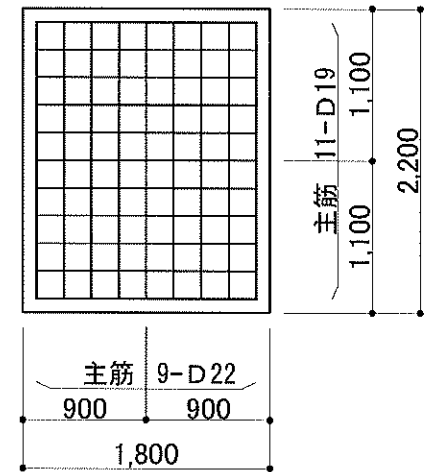
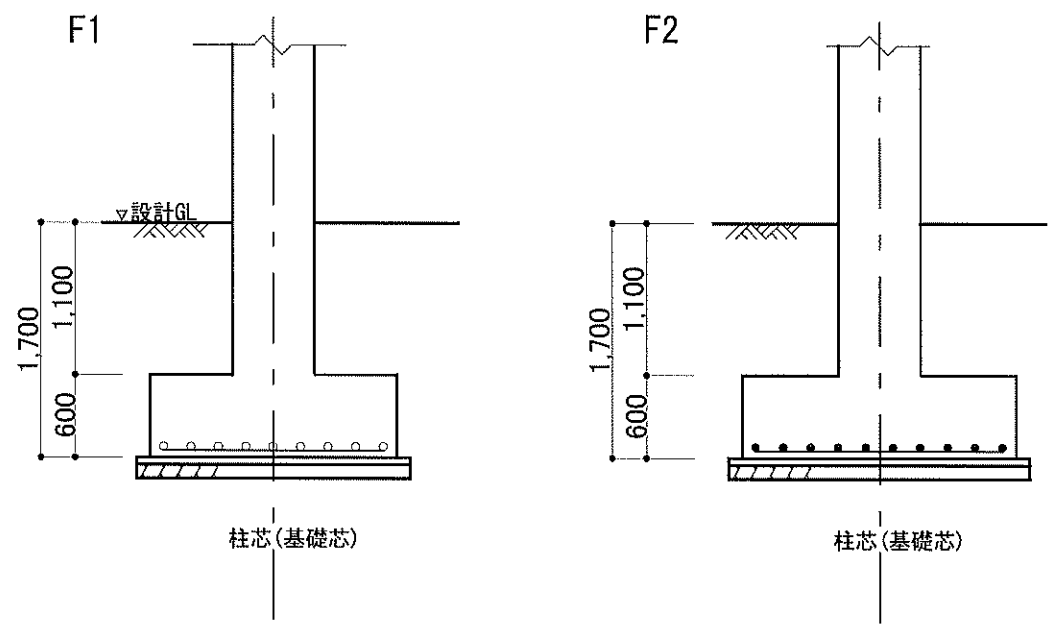
・CLは、コンクリート天端を示す

建具リスト

符 号	開口部（内法寸法）	
	W	H
AW1	3, 500	2, 000
AW2	600	600
AW3	1, 800	1, 500

図面Ⅱ-4

基礎断面リスト



- ・砂利地業は厚100
- ・捨コンクリートは厚50

基礎梁断面リスト

特記なき限り、
幅止筋はD10@600

符 号	FG1		FG2	
位 置	端 部	中 央	端 部	中 央
断 面				
B × D	500 × 1,300		500 × 1,300	
上端筋	6－D25	4－D25	4－D22	3－D22
下端筋	5－D25	6－D25	4－D22	4－D22
スラップ	D13@200		D13@150	
腹 筋	4－D13		4－D13	

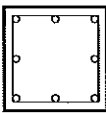
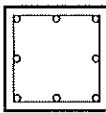
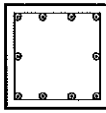
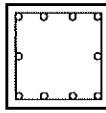
基礎小梁断面リスト

特記なき限り、
幅止筋はD10@600

符 号	FB1
位 置	全断面
断 面	
B × D	400 × 1,300
上端筋	4－D19
下端筋	4－D19
スラップ	D10@200
腹 筋	4－D13

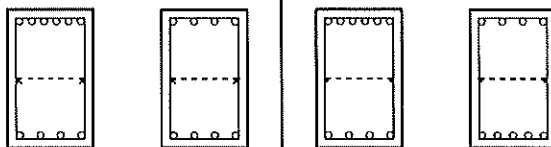
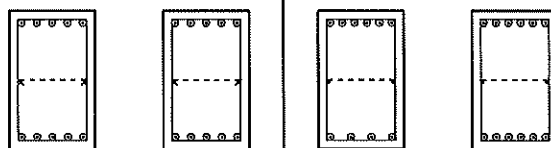
図面Ⅱ-5

柱断面リスト

階	符 号	C1	C2
	位 置	全断面	全断面
2 階	断 面		
	B × D	600 × 600	600 × 600
	主 筋	8-D22	8-D22
	フ-フ' (仕口)	□ D13@150	□ D13@150
	フ-フ' (一般)	□ D13@100	□ D13@100
1 階	断 面		
	B × D	600 × 600	600 × 600
	主 筋	10-D25	10-D22
	フ-フ' (仕口)	□ D13@150	□ D13@150
	フ-フ' (一般)	□ D13@100	□ D13@100

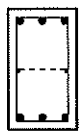
大梁断面リスト

特記なき限り、
幅止筋は D10@600

階	符 号	G1		G2	
	位 置	端 部	中 央	端 部	中 央
R 階	断 面				
	B × D	450 × 700		500 × 700	
	上端筋	6－D22	4－D22	6－D22	4－D22
	下端筋	4－D22	4－D22	4－D22	5－D22
	スラッパ	D13@200		D13@150	
	腹 筋	2－D13		2－D10	
2 階	断 面				
	B × D	500 × 800		500 × 800	
	上端筋	5－D25	5－D25	6－D25	6－D25
	下端筋	5－D25	5－D25	4－D25	6－D25
	スラッパ	D13@200		D13@150	
	腹 筋	2－D13		2－D10	

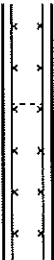
小梁断面リスト

特記なき限り、
幅止筋は D10@600

符 号	B1
位 置	全断面
断 面	
B × D	400 × 600
上端筋	3-D19
下端筋	3-D19
スタップ'	D13@150
腹 筋	2-D10

壁断面リスト

特記なき限り、
幅止筋は D10@1000

符 号		W18
断 面		
壁厚		180
縦 筋		D13@150ダブル
横 筋		D13@150ダブル
開口補強	縦筋	2-D13
	横筋	2-D13
	斜筋	2-D13

床板断面リスト

符 号	厚	位 置	短辺方向		長辺方向	
			端 部	中 央	端 部	中 央
S1	150	上端筋	D13@150		D13@200	
		下端筋	D13@150		D13@200	
S2	150	上端筋	D10@200	D10@400	D10@150	D10@300
		下端筋	D10@200		D10@150	
S3	150	上端筋	D13@200		D10@200	
		下端筋	D13@250		D10@250	

問題 II 解答(2023)

名 称	記号	材種	サイズ	単位	設計数量
基礎	F2	鉄 筋	D19	m	① 40.00
基礎梁	FG1	コンクリート		m ³	② 4.09
		型 枠		m ²	③ 16.36
		鉄 筋	D13	m	④ 145.24
			D25	m	⑤ 82.70
		圧 接	D25+D25	か所	⑥ 9.00
2階柱	C1	コンクリート		m ³	⑦ 1.44
		型 枠		m ²	⑧ 9.60
		鉄 筋	D13	m	⑨ 93.60
			D22	m	⑩ 26.16
			D25	m	⑪ 8.00
		圧 接	D25+D22	か所	⑫ 8.00
2階大梁	G2	コンクリート		m ³	⑬ 1.96
		型 枠		m ²	⑭ 9.56
		鉄 筋	D13	m	⑮ 88.40
			D25	m	⑯ 73.50
2階小梁	B1	コンクリート		m ³	⑰ 1.21
		型 枠		m ²	⑱ 6.57
		鉄 筋	D19	m	⑲ 34.95
1階壁	W18	コンクリート		m ³	⑳ 2.82
		型 枠		m ²	㉑ 31.36
		鉄 筋	D13 (開口補強筋含む)	m	㉒ 582.72
R階床板	S1	コンクリート		m ³	㉓ 1.82
		型 枠		m ²	㉔ 12.12
		鉄 筋	D13	m	㉕ 351.14

(**1**)

No. _____

く 体 積 算

名 称	コ ン ク リ ー ト					型 枠				鉄 筋											圧 接
	寸 法			か所	体 積	寸 法		か所	面 積	形 状	径	長 さ	本数	か所	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D25+D25
基礎梁 FG1	0.50	1.30	6.40	1	4.16	2.60	6.40	1	16.64	上端通し筋	D25	7.58	4	1						30.32	4.00
基礎梁の長さは柱内法長さ 6.40 = 7.00 - 0.30 - 0.30 柱半幅 柱半幅						2.60 = 1.30 x 2 (両面)							7.58 = 6.40 + 0.30 + 0.88 梁長 柱半幅 定着			連続梁の全長にわたる鉄筋で 1×4=4.00 梁長さが5m～10m未満の為1か所の継手を計上					
										下端通し筋	D25	7.58	5	1						37.90	5.00
F2取合	0.50	0.10	0.70	▲ 2	▲ 0.07	0.10	0.70	▲ 4	▲ 0.28				7.58 = 6.40 + 0.30 + 0.88 梁長 柱半幅 定着			連続梁の全長にわたる鉄筋で 1×5=5.00 梁長さが5m～10m未満の為1か所の継手を計上					
0.10 = 1.30 - 1.20 梁成 梁天端～基礎				0.70=1.00-0.30 基礎半幅 柱半幅																	
										左端部上端筋	D25	2.28	2	1						4.56	
													2.28 = 1.60 + 0.30 + 0.38 梁長/4 左柱半幅 余長								
										右端部上端筋	D25	2.86	2	1						5.72	
													2.86 = 1.60 + 0.38 + 0.88 梁長/4 余長 定着								
										中央下端筋	D25	4.20	1	1						4.20	
													4.20 = 3.20 + 0.50 + 0.50 梁長/2 余長 余長								
										腹筋	D13	6.61	4	1		26.44					
													6.61 = 6.40 + 0.03 x 2 + 0.15 梁長 余長 x2 継手								

く 体 積 算

名 称	コ ン ク リ ー ト					型 枠				鉄 筋											圧 接				
	寸 法			か所	体 積	寸 法	か所	面 積	形 状	径	長 さ	本数	か所	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D25+D22					
柱 2C1	0.60	0.60	4.00	1	1.44	2.40	4.00	1	9.60	主筋	D25	1.00	8	1						8.00	8.00				
	階高					2.40 = 0.60 x 4 (周長)					径の異なる主筋を連続させる場合は 異形継手位置(+1.00m)まで下階の鉄筋径とする														
										主筋	D22	3.27	8	1					26.16						
											3.27 = 4.00 - 1.00 + 0.27 階高 下部1m 最上階フック														
																	階の全長にわたる鉄筋は各階ごとに 1か所の継手を計上								
										フープ筋	D13	2.40	39	1		93.60									
											割付け範囲 一般部 4.00 - 0.70 = 3.30 階高 梁成 仕口部 0.70 梁成 割付け本数 一般部 3.30 ÷ 0.10 = 33 → 33 仕口部 0.70 ÷ 0.15 = 4.6... → 5 合 計 33 + 5 =38 38 + 1 = 39本														
											2.40 = 0.60 x 4 (周長)														
					</																				

く 体 積 算

名 称	コ ン ク リ ー ト					型 枠				鉄 筋											圧 接	
	寸 法			か所	体 積	寸 法	か所	面 積	形 状	径	長 さ	本数	か所	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D19+D19		
大梁 2G2	0.50	0.80	4.90	1	1.96	1.95	4.90	1	9.56	上端通し筋	D25	6.66	6	1						39.96		
梁長さは柱内法長さ 4.90 = 5.50 - 0.30 - 0.30 柱半幅 柱半幅						1.95 = 0.80 x 2+ 0.50 - 0.15 梁成 梁底 スラブ厚						6.66 = 4.90 + 0.88 + 0.88 梁長 定着 定着			単独梁において、径16mm以上の鉄筋長さが7.00 m毎に継手が必要 継手無し							
										下端通し筋	D25	6.66	4	1						26.64		
													6.66 = 4.90 + 0.88 + 0.88 梁長 定着 定着			単独梁において、径16mm以上の鉄筋長さが7.00 m毎に継手が必要 継手無し						
										中央下端筋	D25	3.45	2	1						6.90		
													3.45 = 2.45 + 0.50x2 梁長/2 余長x2									
										腹筋	D10	4.96	2	1	9.92							
													4.96 = 4.90 + 0.03 x 2 梁長 + 余長x2									
										スタラップ°	D13	2.60	34	1		88.40						
													割付け本数 = 4.90 ÷ 0.15 = 32.6・・・ → 33 33 + 1 = 34本									
													2.60 = (0.50 + 0.80) x 2 梁幅 梁成									

く 体 積 算

名 称	コ ン ク リ ー ト					型 枠				鉄 筋											圧 接		
	寸 法			か所	体 積	寸 法		か所	面 積	形 状	径	長 さ	本数	か所	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D19+D19		
小梁 2B1	0.40	0.60	5.05	1	1.21	1.30	5.05	1	6.57	上端通し筋	D19	5.97	3	1				17.91					
梁長さは大梁内法長さ 5.05 = 5.50 + 0.30 - 0.5 - 0.25 スパン 柱半幅 梁幅 梁半幅					1.30 = 0.60 x 2 + 0.40 - 0.15 x 2 梁成 梁底 スラブ両側					5.97 = 5.05 + 0.67 + 0.25 梁長 定着 右大梁/2					連続梁の全長にわたる鉄筋で 1×3=3.00 梁長さが5m～10m未満の為1か所の継手を計上					3.00			
										下端通し筋	D19	5.68	3	1				17.04					
													5.68 = 5.05 + 0.38 + 0.25 梁長 定着(20d) 右大梁/2					連続梁の全長にわたる鉄筋で 1×3=3.00 梁長さが5m～10m未満の為1か所の継手を計上					3.00
										腹筋	D10	5.11	2	1	10.22								
													5.11 = 5.05 + 0.03 x 2 梁長 + 余長x2										
										スタラップ°	D13	2.00	35	1		70.00							
													割付け本数 = 5.05 ÷ 0.15 = 33.6・・・ → 34 34 + 1 = 35本										
													2.00 = (0.40 + 0.60) x 2 梁幅 梁成										

く 体 積 算

名 称	コ ン ク リ ー ト					型 枠				鉄 筋											圧 接
	寸 法			か所	体 積	寸 法	か所	面 積	形 状	径	長 さ	本数	か所	D10	D13	D16	D19	D22	D25		
壁 1W18	4.90	3.20	0.18	1	2.82	4.90	3.20	2	31.36	縦筋	D13	4.44	68	1		301.92					
			壁高さは梁内法長さ 3.20 = 4.00 - 0.80 階高 梁成											割付け本数 = 4.90 ÷ 0.15 = 32.6... → 33 33 + 1 = 34本 ダブル配筋の為 34x2=68本							
														4.44 = 3.20 + 0.39 x 2 + 0.46 壁高さ 定着 x 2 継手				縦筋の継手は 各階に1か所計上			
		壁長さは柱内法長さ 4.90 = 5.50 - 0.30 - 0.30 スパン 柱半幅 柱半幅								横筋	D13	5.68	46	1		261.28					
														割付け本数 = 3.20 ÷ 0.15 = 21.3... → 22 22 + 1 = 23本 ダブル配筋の為 23x2=46本							
														5.68 = 4.90 + 0.39 x 2 壁長さ 定着 x 2							
AW-2 開口																					
		開口面積 = 0.60 x 0.60 =0.36㎡ 開口面積が0.50㎡以下のため欠除は 行わない ただし、開口補強は積算対象								開口補強筋 縦	D13	1.52	2	2		6.08					
														左右 2か所分							
														1.52 = 0.60 + 0.46 x 2 開口寸法 開口定着x2							
										開口補強筋 横	D13	1.52	2	2		6.08					
										開口補強筋 斜	D13	0.92	2	4		7.36					
														開口の4隅 4か所分							
														0.92 = 0.46 x 2 開口定着x2							

(**10**)

No. _____

く 体 積 算

名 称	コ ン ク リ ー ト					型 枠				鉄 筋											圧 接
	寸 法			か所	体 積	寸 法		か所	面 積	形 状	径	長 さ	本数	か所	D10	D13	D16	D19	D22	D25	
床板 RS1	2.40	5.05	0.15	1	1.82	2.40	5.05	1	12.12	短辺上端筋	D13	3.18	35	1		111.30					
			長辺長さは梁内法長さ 5.05 = 5.50 + 0.30 - 0.50 - 0.25 スパン 柱半幅 梁幅 梁半幅											割付け本数 = 5.05 ÷ 0.15 = 33.6... → 34 34 + 1 = 35本							
														3.18 = 2.40 + 0.39 x 2 床板長 定着							
			短辺長さは梁内法長さ 2.40 = 2.75 + 0.30 - 0.45 - 0.20 スパン 柱半幅 梁幅 小梁半幅							短辺下端筋	D13	2.70	35	1		94.50					
														割付け本数 = 5.05 ÷ 0.15 = 33.6... → 34 34 + 1 = 35本							
														2.70 = 2.40 + 0.15 x 2 床板長 定着							
										長辺上端筋	D13	5.83	13	1		75.79					
														割付け本数 = 2.40 ÷ 0.20 = 12 12 + 1 = 13本							
														5.83 = 5.05 + 0.39 x 2 床板長 定着x2							
										長辺下端筋	D13	5.35	13	1		69.55					
														割付け本数 = 2.40 ÷ 0.20 = 12 12 + 1 = 13本							
														5.35 = 5.05 + 0.15 x 2 床板長 定着x2 継手							
					㊲				㊳							㊴					
					1.82				12.12							351.14					

2023年度 建築積算士試験 【二次試験】

問題Ⅲ 図面Ⅲ－1からⅢ－5までについて、以下の1～3の設計数量を「建築積算士ガイドブック」および「建築数量積算基準」に従って計測・計算し、解答用紙の所定の欄に記入しなさい。
解答は、小数点以下第3位を四捨五入して、小数点以下第2位までを記入しなさい。

1. 内部仕上 : 事務室、湯沸室、貸店舗、倉庫の仕上のうち、解答欄に示す①～⑯までの数量。
2. 開口部 : 平面図に記載の建具（SD、SSD、AW、SSF）の全数のうち、解答欄に示す⑳～㉔までの数量。
3. 間仕切 : 軽量鉄骨間仕切下地（LGS）のうち、解答欄に示す㉕の数量。

特記事項

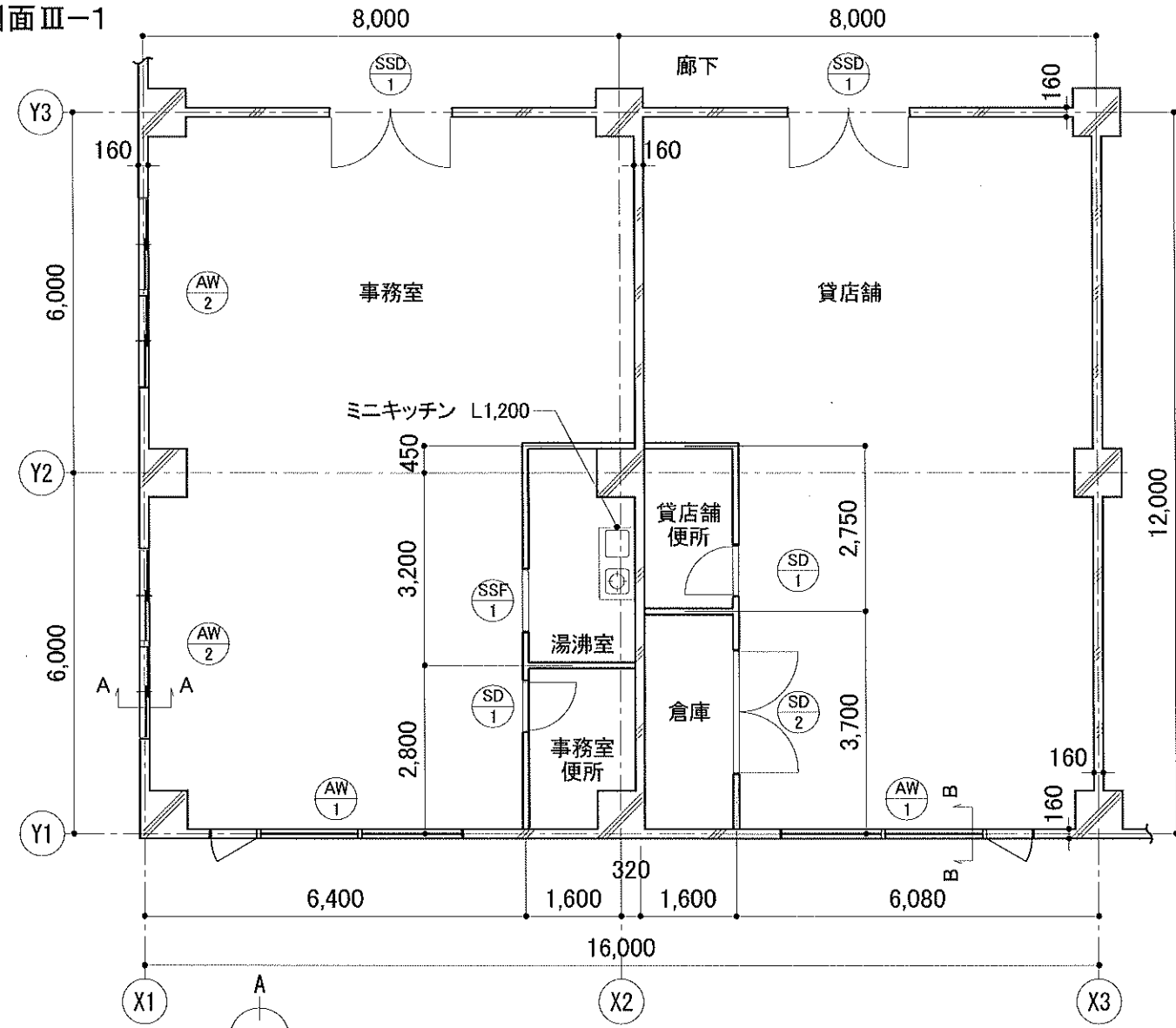
1. 構造は、鉄筋コンクリート造とする。
2. 通り芯は、躯体および準躯体の柱芯、壁芯とする。
3. 外壁面（X1通り・Y1通り）の内部側に、柱型、梁型を除いて断熱材t20吹付けとし、RC内壁への断熱材の折返しはないものとする。
4. 内部間仕切は、軽量鉄骨間仕切下地（LGS）100形とし、スラブからスラブ間の設置とする。
5. 開口部においてSSD、SSFはステンレス製建具、SDは鋼製建具、AWはアルミ製建具とする。建具面の塗装は建具表の塗装係数を用いる。
6. 湯沸室のミニキッチンは、接する床・幅木・壁の表面仕上（ビニル床シート・ビニル幅木・ビニルクロス）の施工前に設置するものとする。
7. 壁には、柱型は含まない。
8. ブラインドボックスは、W200×H100とし、取合部に廻縁は不要とする。
9. ガラスシーリングは片面周長×2倍の両面周長とする。

内部仕上表

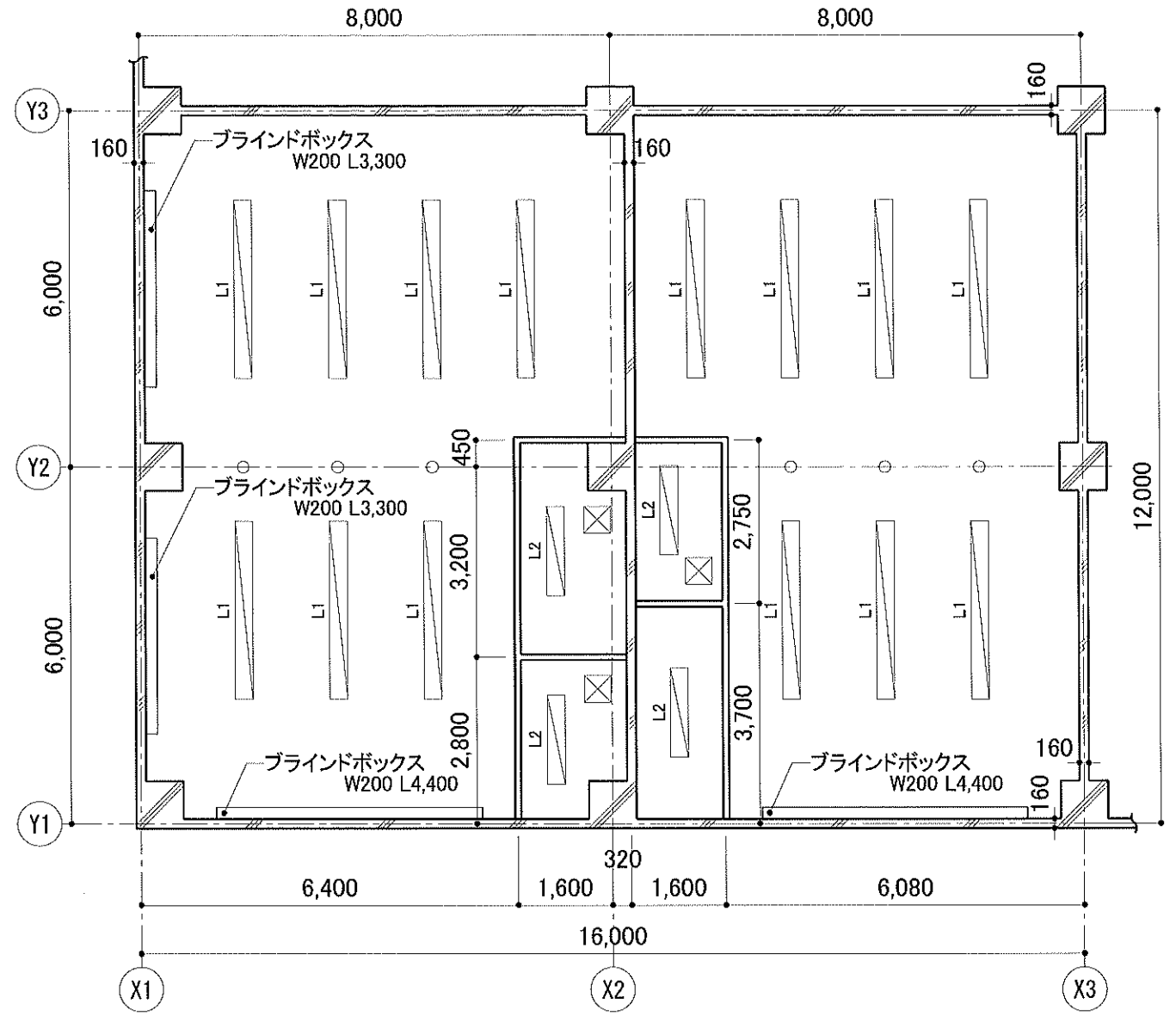
床下地の（ ）の数値はスラブ天端を表す。

部屋名	床		幅 木		壁・柱		天 井		廻縁	天井高	備 考
	仕上	下地	仕上	下地	仕上	下地	仕上	下地			
事務室	タイルカーペット t6 乾式二重床 H100	RC (FL -100)	ビニル幅木 H60	壁に同じ	ビニルクロス	断熱材面：石こうボード t12.5 GL コンクリート面：コンクリート打放し LGS間仕切り面：石こうボード t12.5	ロックウール 吸音板 t9	石こうボード t9.5 LGS	塩ビ	3,000	ブラインドボックス（埋込型）アルミ製 W200
湯沸室	ビニル床シート t2.5 乾式二重床 H100	RC (FL -100)	ビニル幅木 H60	壁に同じ	ビニルクロス	コンクリート面：コンクリート打放し LGS間仕切り面：石こうボード t12.5	EP塗	石こうボード t12.5 LGS	塩ビ	2,400	ミニキッチン L1,200×D600×H2,000 天井点検口
事務室便所	ビニル床シート t2.5 乾式二重床 H100	RC (FL -100)	ビニル幅木 H60	壁に同じ	ビニルクロス	断熱材面：石こうボード t12.5 GL コンクリート面：コンクリート打放し LGS間仕切り面：石こうボード t12.5	EP塗	石こうボード t12.5 LGS	塩ビ	2,400	天井点検口
貸店舗	ビニル床シート t2.5 コンクリート金ゴテ押え	RC (FL ±0)	ビニル幅木 H60	壁に同じ	EP塗	断熱材面：石こうボード t12.5 GL コンクリート面：コンクリート打放し LGS間仕切り面：石こうボード t12.5	ロックウール 吸音板 t9	石こうボード t9.5 LGS	塩ビ	3,000	ブラインドボックス（埋込型）アルミ製 W200
倉庫	ビニル床シート t2.5 コンクリート金ゴテ押え	RC (FL ±0)	ビニル幅木 H60	壁に同じ	EP塗	断熱材面：石こうボード t12.5 GL コンクリート面：コンクリート打放し LGS間仕切り面：石こうボード t12.5	EP塗	石こうボード t12.5 LGS	塩ビ	2,400	
貸店舗便所	ビニル床シート t2.5 コンクリート金ゴテ押え	RC (FL ±0)	ビニル幅木 H60	壁に同じ	EP塗	コンクリート面：コンクリート打放し LGS間仕切り面：石こうボード t12.5	EP塗	石こうボード t12.5 LGS	塩ビ	2,400	天井点検口

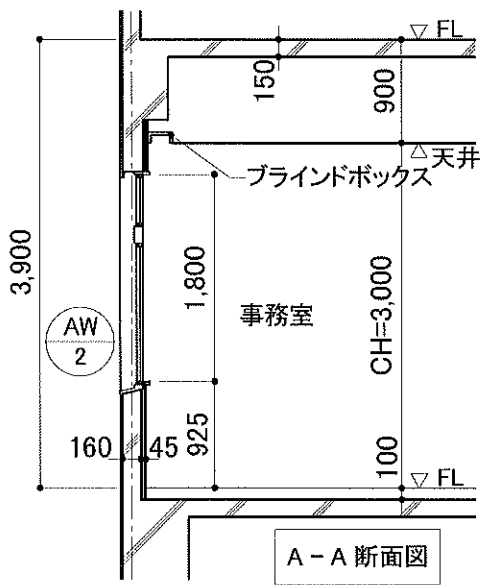
図面Ⅲ-1



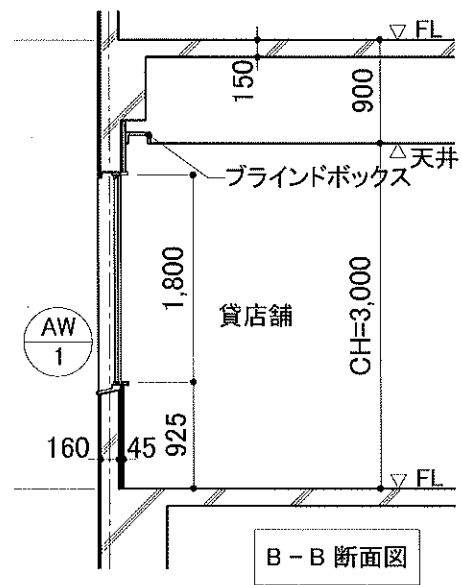
平面図 (X1通り、Y1通りは外壁とする。X2-X3、Y1-Y3間のスラブ天端はFL±0とする)



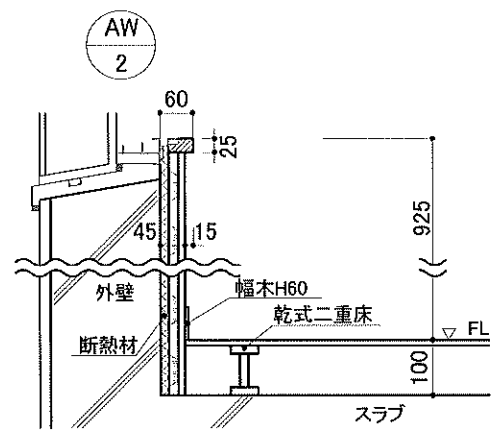
天井伏図



A-A 断面図



B-B 断面図



A-A 断面立上り部詳細図

躯体・準躯体リスト

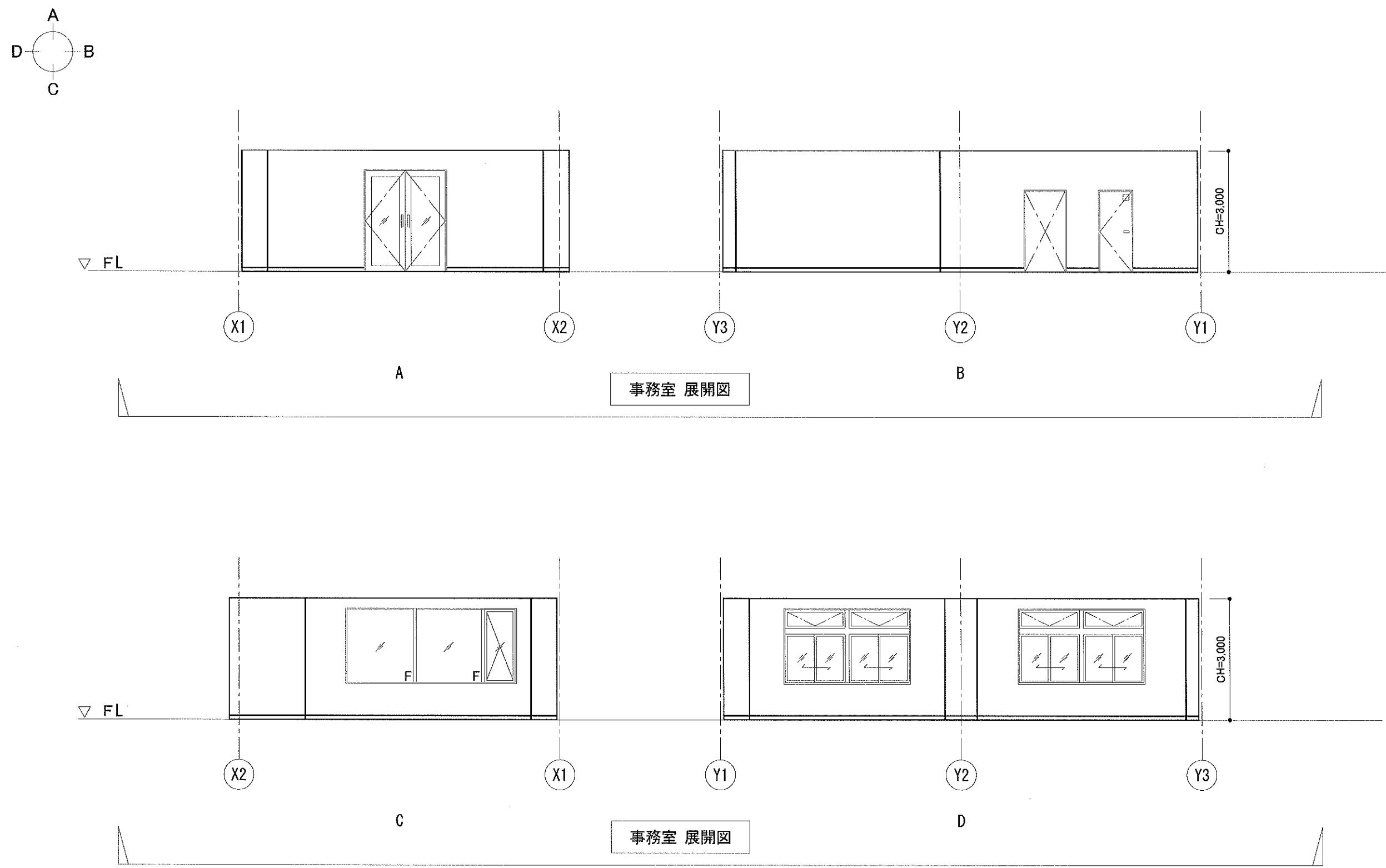
部位(部材)	寸法	記号
柱(RC)	800×800	
梁(RC)	400×700	
外壁(RC)	厚 160	
内壁(RC)	厚 160	
スラブ(RC)	厚 150	
間仕切下地(LGS)	100形	

天井開口部リスト

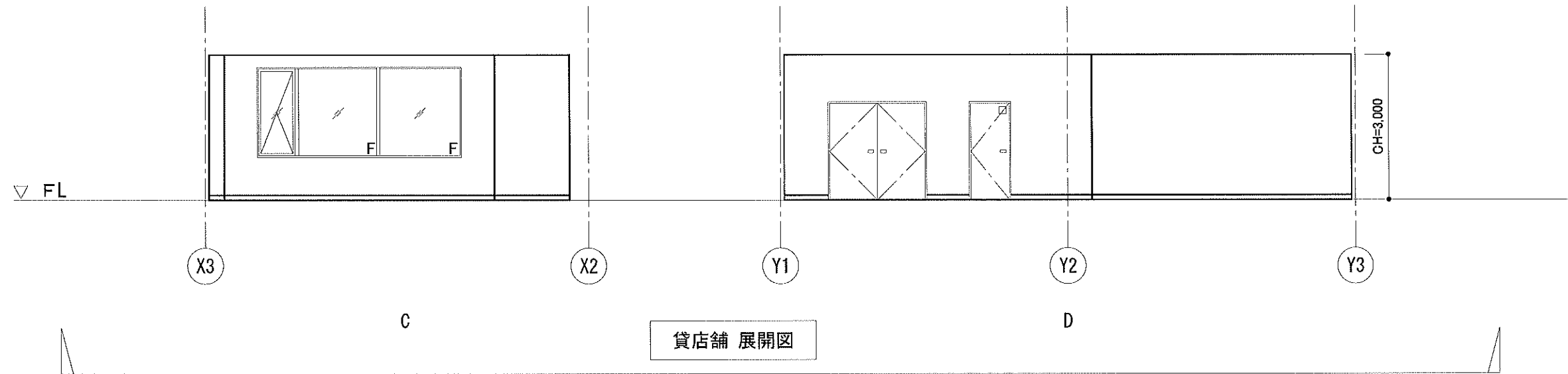
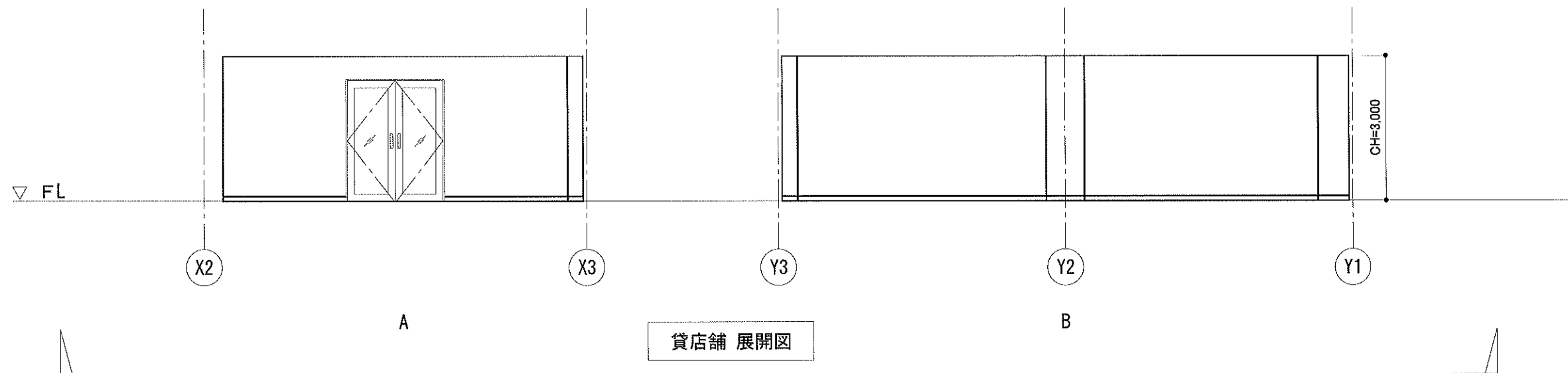
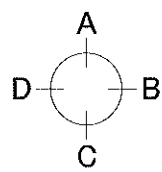
記号	寸法
L1	300×3,000
L2	300×1,500
○	200Φ
⊗	450×450

注: 天井開口部リストに示されている器具等は埋込型である

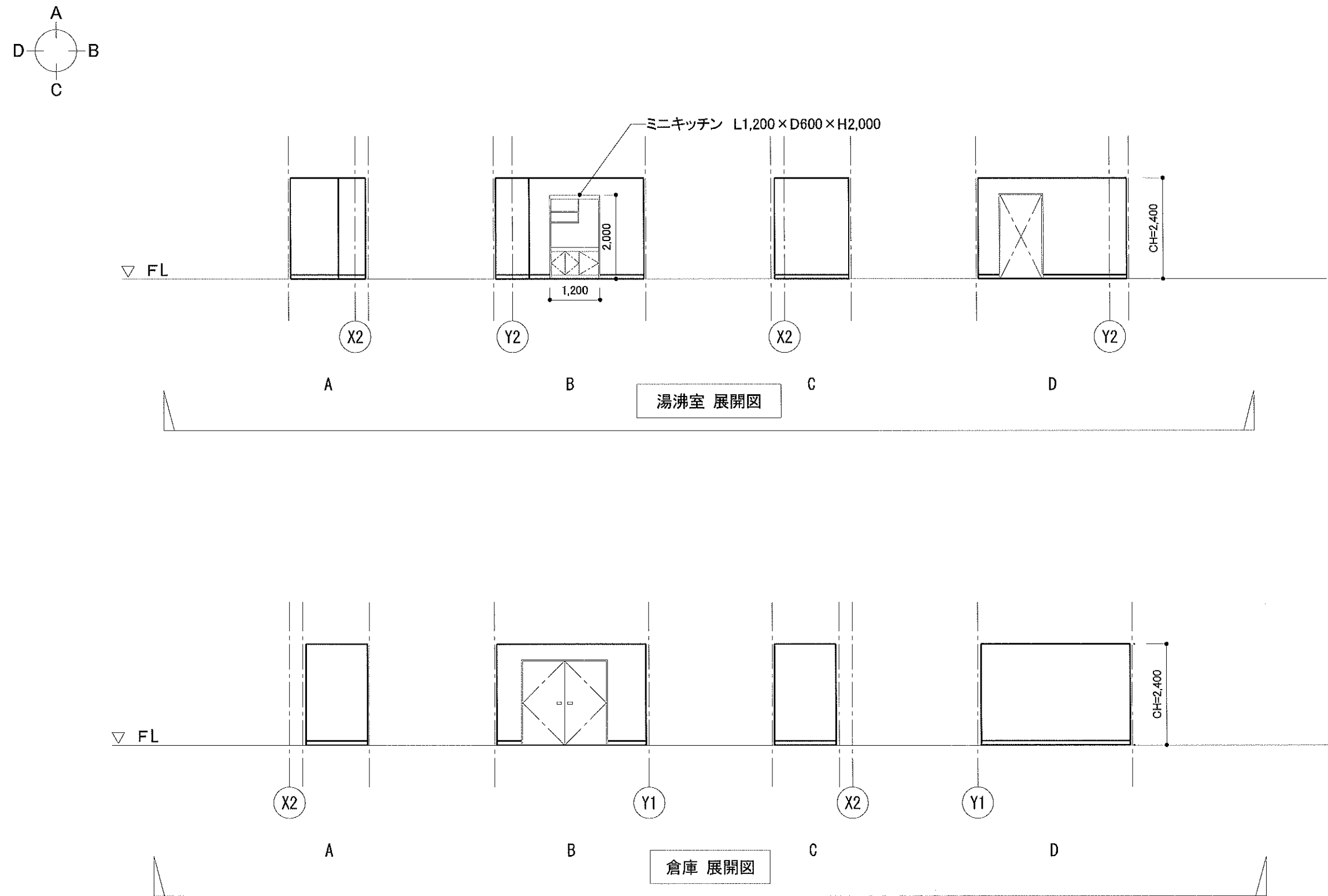
図面Ⅲ-2



図面Ⅲ-3



図面Ⅲ-4



図面Ⅲ-5

建具リスト

記号・建具名	SSD 1 両開ガラス框戸(内部)	AW 1 滑出し窓+FIX窓(外部)	AW 2 排煙窓付二連引違窓(外部)
姿 図			
材質・枠見込	ステンレス製・145	アルミ製・145	アルミ製・100
ガラス	強化ガラス t10	フロートガラス t10	網入磨き板ガラス t6.8
塗装(係数)	—————	—————	—————

記号・建具名	SD 1 明り窓付片開戸(内部)	SD 2 両開戸(内部)	SSF 1 開口三方枠(内部)
姿 図			
材質・枠見込	鋼製・145	鋼製・145	ステンレス製・180
ガラス	(明り窓:建具に含む)	—————	—————
塗装(係数)	SOP (2.9)	SOP (2.6)	—————

問題 Ⅲ 解答用紙

部 屋		部位	仕 上	単位	設計数量	
内 部 仕 上	事務室	床	タイルカーペットt6 乾式二重床H100下地	m ²	①	83.97
		幅木	ビニル幅木H60 コンクリート打放し下地(柱型含まず)	m	②	9.98
		幅木	ビニル幅木H60 石こうボードt12.5下地(GL工法)	m	③	15.71
		柱型	ビニルクロス コンクリート打放し下地	m ²	④	15.52
		壁	ビニルクロス 石こうボードt12.5下地(LGS面)	m ²	⑤	20.94
		壁断熱材	X1通り、Y1－Y3間の外壁面 断熱材t20	m ²	⑥	22.10
		天井	ロックウール吸音板t9 石こうボードt9.5 LGS下地	m ²	⑦	75.47
		廻縁	塩ビ	m	⑧	30.28
	湯沸室	床	ビニル床シートt2.5 乾式二重床H100下地	m ²	⑨	5.12
		幅木	ビニル幅木H60 コンクリート打放し下地(柱型含まず)	m	⑩	1.55
		壁	ビニルクロス コンクリート打放し下地(柱型含まず)	m ²	⑪	4.11
	貸店舗	床	ビニル床シートt2.5 コンクリート金コテ押え下地	m ²	⑫	78.96
		幅木(柱)	ビニル幅木H60 コンクリート打放し下地(柱型)	m	⑬	3.04
		幅木	ビニル幅木H60 石こうボードt12.5下地(LGS面)	m	⑭	5.19
		柱型	EP塗 コンクリート打放し下地	m ²	⑮	8.94
		壁	EP塗 コンクリート打放し下地	m ²	⑯	61.86
		廻縁	塩ビ	m	⑰	34.96
	倉庫	床	ビニル床シートt2.5 コンクリート金コテ押え下地	m ²	⑱	5.25
		壁	EP塗 石こうボードt12.5下地(LGS面)	m ²	⑲	7.92
開口部			外部建具周囲モルタル充填(防水材入り)	m	⑳	43.60
			強化ガラスt10	m ²	㉑	6.16
			網入磨き板ガラスt6.8	m ²	㉒	7.44
			AW-1アルミ製建具用ガラスシーリング(両面の数量とする)	m	㉓	76.80
			SOP鋼製建具面	m ²	㉔	19.68
間仕切			LGS 100形 全数量	m ²	㉕	64.41

床			壁			天井			その他
仕上	計 算	数 量	仕上	計 算	数 量	仕上	計 算	数 量	
①解答例			②解答例			⑦解答例			
床	タイルタイルカーペット t6. 乾式二重床 H100		幅木	(コンクリート面) ビニル巾木 H60		天井	ロックウール吸音板 t9 石膏ボードt9.5		
				コンクリート打ち放し下地			LGS下地		
X1・Y1通柱	8.16×11.84 △0.64×0.64×1	96.61	Y3通柱	8.16 △(0.64+0.64)	8.16 △ 1.28	全体照明L1	床面積より(床面積と同じ)	83.97	
X1・Y2通柱	△0.64×0.80×1	△ 0.51	X2通柱	6.00-0.45-0.05-0.08 △0.32	5.42 △ 0.32		△0.30×3.00×7 照明L1= 0.50m2以上/か所 よって減	△ 6.30	
X1・Y3通柱	△0.64×0.32×1								
X2・Y3通柱	△0.64×0.32×1 上記柱型見消しは			小計	11.98	ブラインドボックス			
	0.50m2以下/か所よって減なし		SSD-1		△ 2.00		△0.20×4.40×1 △0.20×3.30×2 ブラインドボックス	△ 0.88 △ 1.32	
部屋欠込み部	△1.89×6.42	△ 12.13			9.98 (m)		0.50m2以上/か所 よって減		
		83.97 (m2)						75.47 (m2)	
			③解答例						
基本寸法			幅木	(断熱材面) ビニル巾木 H60		⑧解答例			
X方向	8.16=8.00+0.4-0.16-0.08			石膏ボードT12.5下地(GL工法)		回縁	天井回り縁 塩ビ		
Y方向	11.84=6.00+6.00-0.08-0.08								
部屋欠込み部			X1通柱	11.84 △(0.64+0.80+0.32)	11.84 △ 1.76	周長より ブラインドボックス		41.28	
X方向	1.89=1.60+0.32-0.08+0.05		Y1通柱	8.16-1.89 △064	6.27 △ 0.64		△3.3×2 △4.40×1	△ 6.60 △ 4.40	
Y方向	6.42=6.00+0.45+0.05-0.08								
周長									
	41.29=(8.16+11.84)×2 +柱型 0.64×2				15.71 (m)			30.28 (m)	

床			壁			天 井			そ の 他
仕 上	計 算	数 量	仕 上	計 算	数 量	仕 上	計 算	数 量	
			④解答例						
			壁	(柱型) ビニルクロス					
				コンクリート打ち放し下地					
			X2・Y3通柱	0.96×3.00	2.88				
			X1・Y1通柱	1.28×3.00	3.84				
			X1・Y2通柱	2.08×3.00	6.24				
			X1・Y3通柱	0.96×3.00	2.88				
			幅木	△5.28×0.06	△ 0.32				
					15.52				
					(m2)				
			⑤解答例						
			壁	(LGS面) ビニルクロス					
				PBt12.5下地(LGS面)					
				1.89×3.00	5.67				
				6.42×3.00	19.26				
			SSF-1	△1.00×2.00×1	△ 2.00				
			SD-1	△0.80×2.00×1	△ 1.60				
			幅木	△6.51×0.06	△ 0.39				
					20.94				
					(m2)				

床			壁			天井			その他
仕上	計算	数量	仕上	計算	数量	仕上	計算	数量	
			⑥解答例						
			壁断熱材	断熱材 t20					
				10.08×3.30	33.26				
			AW-2	△3.10×1.80×2	△ 11.16				
					22.10				
					(m2)				
			長さ	10.08=11.84-1.76					
				X1通り 基本長さより 11.84					
				柱型減 0.64+0.80+0.32=1.76					
			高さ						
			3.30=	階高3.9+スラブ下り0.1-梁 0.70					

床			壁			天 井			そ の 他
仕 上	計 算	数 量	仕 上	計 算	数 量	仕 上	計 算	数 量	
⑨解答例 床	ビニル床シート t2.5 乾式二重床 H100		⑩解答例 幅木	(コンクリート面) ビニル巾木 H60					
				コンクリート打ち放し下地					
柱	1.79×3.55 0.80×0.64	6.35 △ 0.51	柱	3.55 △ 0.80	3.55 △ 0.80				
ミニキッチン	△1.20×0.60×1	△ 0.72	キッチン	△1.20	△ 1.20				
					1.55 (m)				
		5.12 (m2)	⑪解答例 壁	(コンクリート面) ビニルクロス					
				コンクリート打ち放し下地					
基本寸法			キッチン	(3.55-柱0.80)×2.40 △1.20×2.00	6.60 △ 2.40				
X方向	1.79=1.60+0.32-0.08-0.05		幅木	△1.55×0.06	0.09				
Y方向	3.55=3.20+0.45-0.05-0.05								
					4.11 (m2)				

床			壁			天 井			そ の 他
仕 上	計 算	数 量	仕 上	計 算	数 量	仕 上	計 算	数 量	
⑫解答例 床	ビニル床シート t2.5 コンクリート金コテ押え下地		⑬解答例 幅木	(柱型) ビニル巾木 H60 コンクリート打ち放し下地		⑰解答例 回縁	天井回り縁 塩ビ		
								39.36	
X3・Y1通柱	7.52×11.84 △0.32×0.64	89.04 △ 0.20	X3・Y1通柱	0.32+0.64	0.96	周長	39.36		
X3・Y2通柱	△0.32×0.80	△ 0.26	X3・Y2通柱	0.32×2+0.80	1.44	ブラインドボックス			
X3・Y3通柱	△0.32×0.32	△ 0.10	X3・Y3通柱	0.32+0.32	0.64		△4.40	△ 4.40	
	上記柱型見消しは 0.50m2以下/か所よって減なし				3.04			34.96	
部屋欠込み部	△1.57×6.42	△ 10.08			(m)			(m)	
	78.96		⑭解答例						
	(m2)		幅木	(LGS面) ビニル巾木 H60					
				PBt12.5下地(LGS面)					
基本寸法									
X方向	7.52=8.00-0.40-0.08			1.57+6.42	7.99				
Y方向	11.84=6.00+6.00-0.08-0.08								
部屋欠込み部			SD-1	△0.80	△ 0.80				
X方向	1.57=1.60+0.05-0.08		SD-2	△2.00	△ 2.00				
Y方向	6.42=3.70+2.75+0.05-0.08				5.19				
					(m)				
周長									
	39.36=(7.52+11.84)×2 +柱型0.32×2								

床			壁			天 井			そ の 他
仕 上	計 算	数 量	仕 上	計 算	数 量	仕 上	計 算	数 量	
			⑮解答例						
			壁	(柱型) EP					
				コンクリート打放し下地					
			X3・Y1通柱	0.96×3.00	2.88				
			X3・Y2通柱	1.44×3.00	4.32				
			X3・Y3通柱	0.64×3.00	1.92				
			幅木	3.04×0.06	△ 0.18				
					8.94				
					(㎡)				
			⑯解答例						
			壁	(コンクリート面) EP					
				コンクリート打放し下地					
	Y3通り 7.52-0.32=7.20 X3通り 11.84-0.64-0.8-0.32=10.08			22.70×3.00	68.10				
	X2通り 6.00-0.45-0.05--0.08=5.42 計22.70		SSD-1	△2.00×2.50	△ 5.00				
			幅木	△20.70×0.06	△ 1.24				
					61.86				
					(㎡)				

内部	倉庫
----	----

仕 上 積 算

床			壁			天 井			そ の 他
仕 上	計 算	数 量	仕 上	計 算	数 量	仕 上	計 算	数 量	
⑱解答例			⑲解答例						
床	ビニル床シート t2.5 コンクリート金コテ押え下地		壁	(LGS面) EP PBt12.5下地 (LGS面)					
	1.47×3.57	5.25		1.47×2.40 3.57×2.40	3.53 8.57				
			SD-2	△2.00×2	△ 4.00				
		5.25	幅木	△3.04×0.06	△ 0.18				
					7.92				
基本寸法									
X方向	1.47=1.60-0.08-0.05								
Y方向	3.57=3.70-0.08-0.05								

[illegible]

建 具 積 算 [金 属 製 ・ 木 製]

(9)

符号	寸 法		面 積	か所	面積計	塗 装					ガ ラ ス						充填モルタル
	W	H	A	N	AN	種類	係数	鋼製建具面 SOP			種類	計 算	網入り磨き 板ガラス	強化ガラス		ガラス回り シーリング	外部
													t6.8	t10			
AW-1	4.20	1.80	7.56	2	15.12				充填モルタル(防水材入り)			$(4.20 + 1.80) \times 2 \times 2$					24.00
									ガラス回りシーリング			$4.20 \times 2 \times 2 = 16.80 \times \text{両面} 2 = 33.60$				76.80	
												$1.80 \times 6 \times 2 = 21.60 \times \text{両面} 2 = 43.20$					
AW-2	3.10	1.80	5.58	2	11.16				充填モルタル(防水材入り)			$(3.10 + 1.80) \times 2 \times 2$					19.60
									網入り磨き板ガラス t6.8			$3.10 \times 1.20 \times 2$	7.44				
SSD-1	2.00	2.50	5.00	2	10.00				強化ガラス t10			$0.70 \times 2.20 \times 2 \times 2$		6.16			
												$(0.70 = 1.00 - 0.15 \times 2)$					
												$(2.20 = 2.50 - 0.15 \times 2)$					
SD-1	0.80	2.00	1.60	2	3.20	SOP	2.9	9.28									
SD-2	2.00	2.00	4.00	1	4.00	SOP	2.6	10.40									
								②4					②2	②1		②3	②0
								解答例					解答例	解答例		解答例	解答例
								19.68					7.44	6.16		76.80	43.60
								(m2)					(m2)	(m2)		(m)	(m)

2023年度 建築積算士試験 【二次試験】

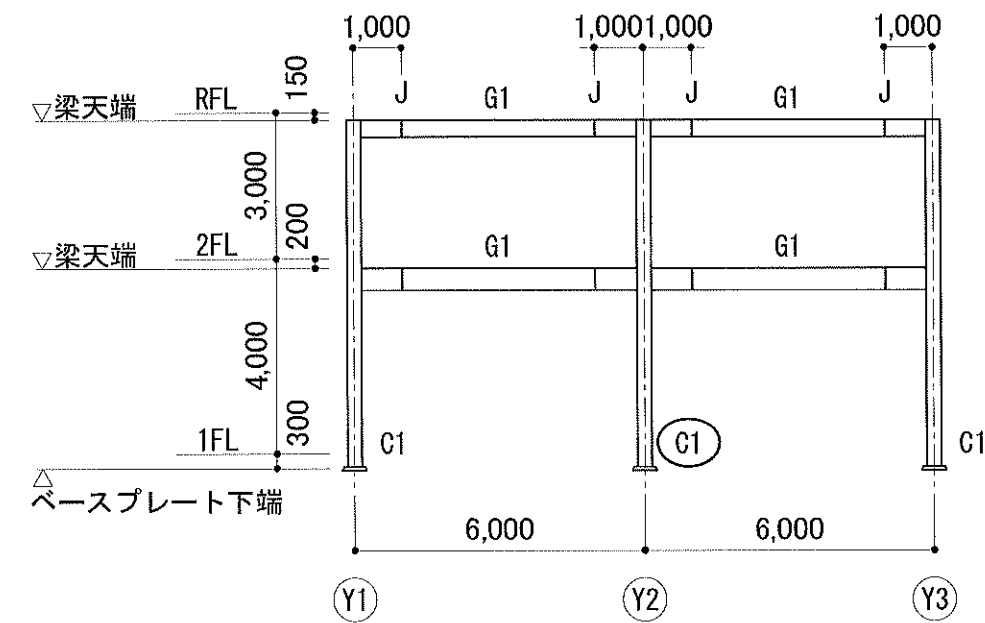
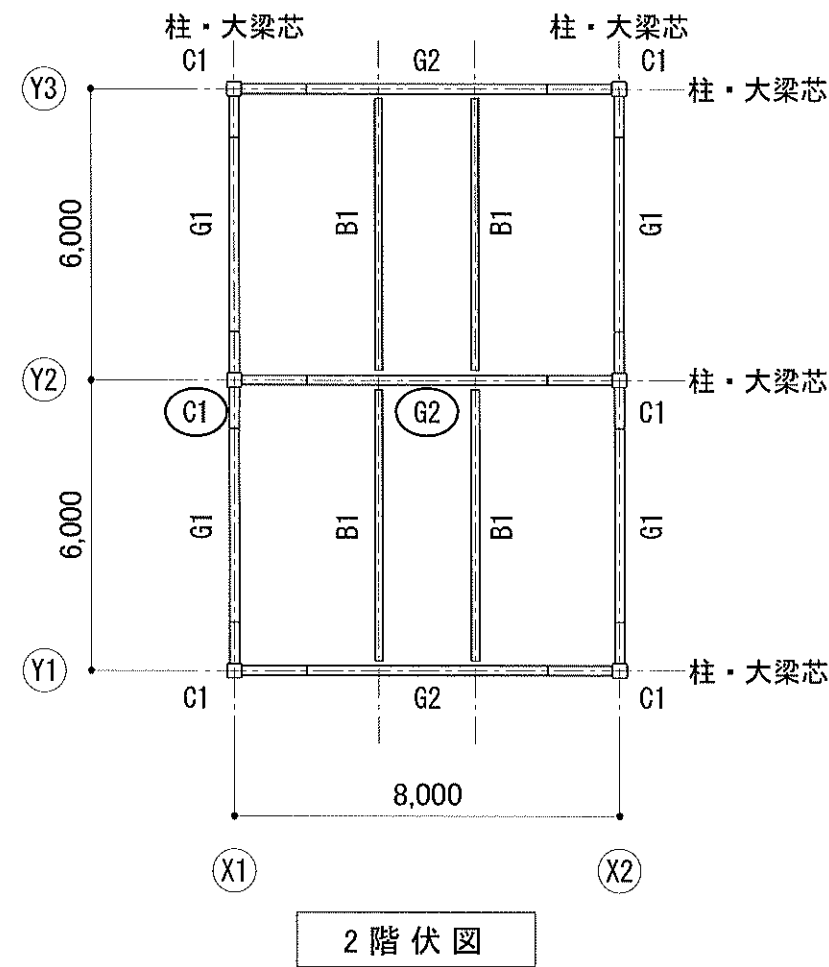
問題Ⅳ 図面Ⅳ-1からⅣ-3までについて、以下の1～3の設計数量を「建築積算士ガイドブック」および「建築数量積算基準」に従って計測・計算し、解答用紙の所定の欄に記入しなさい。
解答は、小数点以下第3位を四捨五入して、小数点以下第2位までを記入しなさい。

- 1. 1節柱 C1 [X1通り、Y2通り] 1台
- 2. 2階大梁 G2 [Y2通り、X1通り～X2通り] 1台
- 3. 溶接の数量は、図面Ⅳ-2 内 [2階X1、Y2] について、梁フランジとダイヤフラムとの溶接および、梁ウェブと柱との溶接を計測・計算し、すみ肉溶接脚長6mmに換算した延長さ (m) とする。

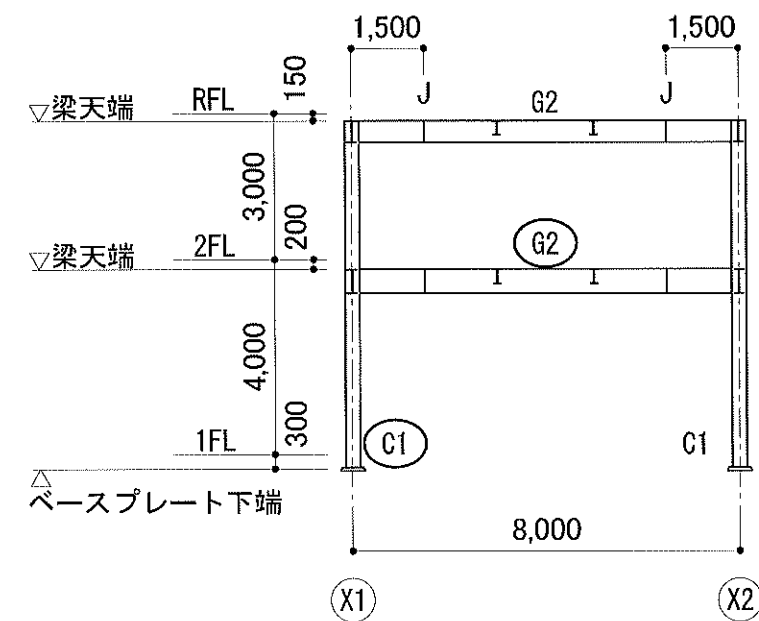
特記事項

- 1. 図面の○印は計測・計算の対象部材を示す。
- 2. J はジョイント位置を示す。
- 3. 鋼板の数量は、面積 (㎡) とする。
- 4. BH (鋼板組立H形鋼) 材は、鋼板として数量を計上しなさい。
- 5. 高力ボルトの数量は、本数とする。
- 6. SPL はスプライスプレートを示す。

図面Ⅳ-1



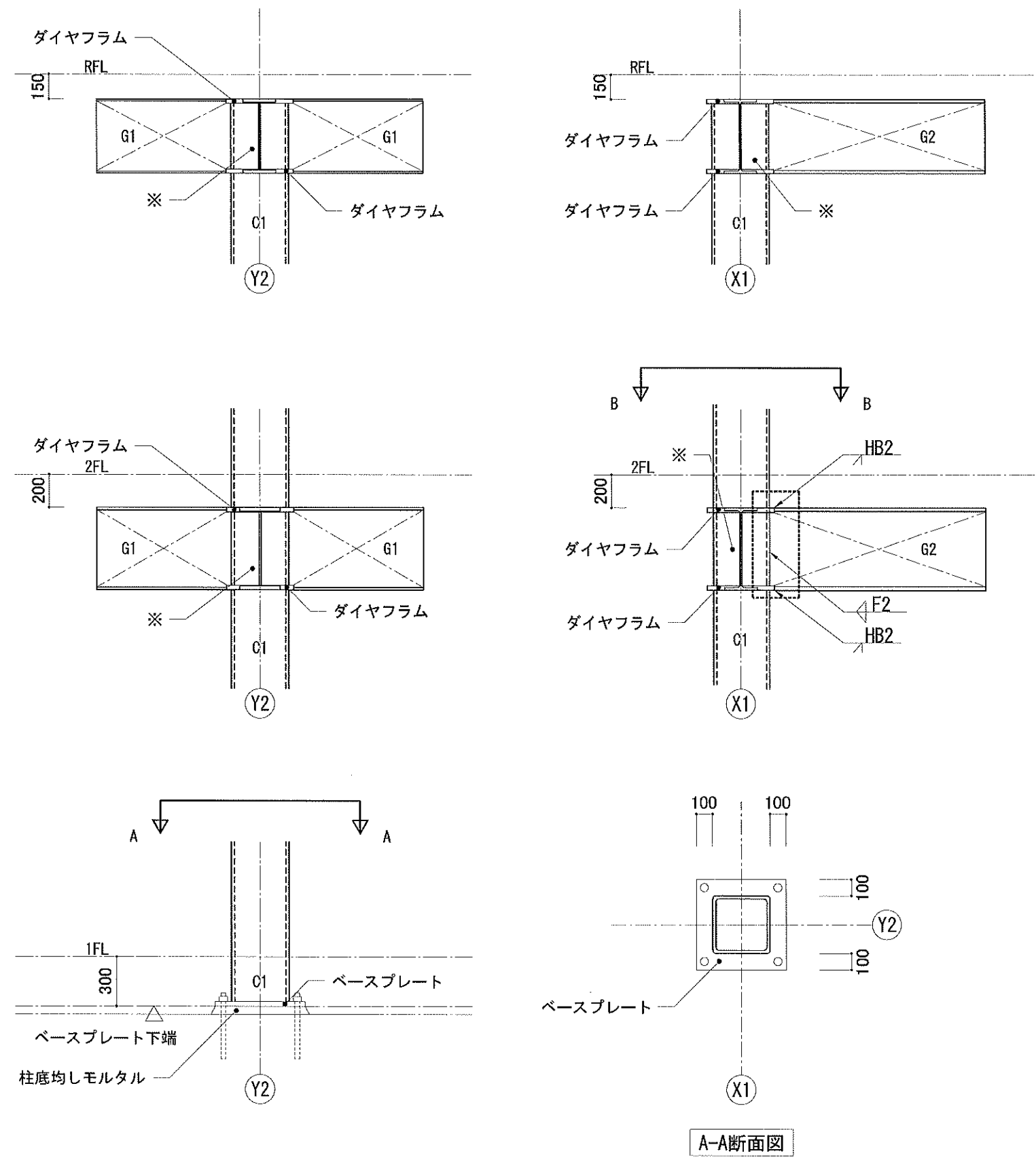
X1 通り 軸組図



Y2 通り 軸組図

図面IV-2

鉄骨標準図



ダイヤフラム板厚選定表

梁フランジの最大板厚 (mm)	ダイヤフラム板厚 (mm)
12	19
16	22
19	25
22	28
25	32
28	36
32	40

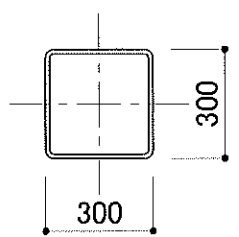
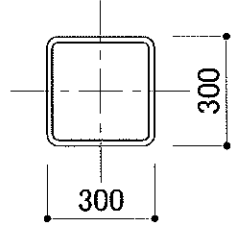
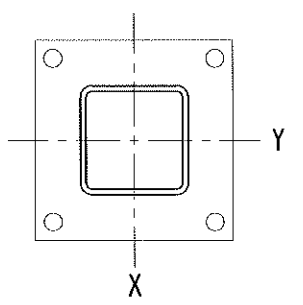
※ 仕口部柱主材は、取付く柱主材の大きい方の主材と同じとする。

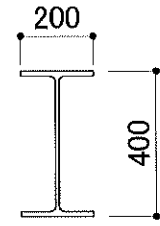
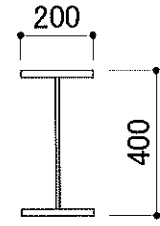
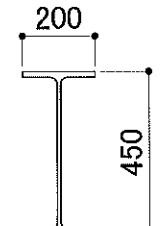
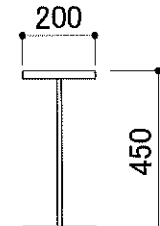
溶接換算表

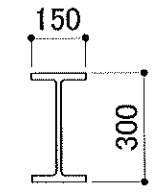
tは板厚、Kは換算係数

F ₂				H B ₂			
t	K	t	K	t	K	t	K
4	0.50	14	5.56	14	8.66	24	18.70
5	0.89	15	6.72	15	9.30	25	19.65
6	1.39	16	8.00	16	9.99	26	20.64
7	1.39	17	3.98	17	10.72	27	21.66
8	2.00	18	4.81	18	11.50	28	22.71
9	2.72	19	4.81	19	12.33	29	23.79
10	3.56	20	5.73	20	14.44	30	24.91
11	3.56	21	6.72	21	16.02	31	26.05
12	4.50	22	6.72	22	16.88	32	27.23
13	5.56			23	17.77		

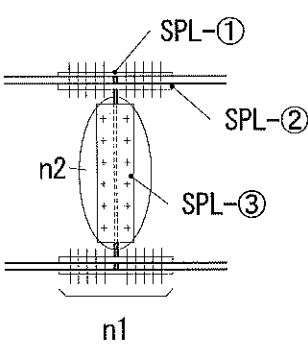
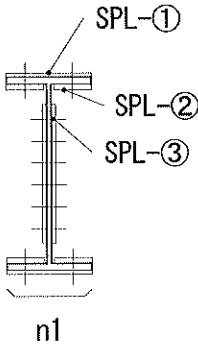
図面Ⅳ-3

柱リスト	
符号	C1
2階	
	□-300×300×12
1階	
	□-300×300×16
柱脚	
	ベースプレート PL-25 アンカーボルト 4-M22 L=800(Wナット)

大梁リスト		
符号	G1（全断面）	G2（全断面）
R階		
	H-400×200×8×13	BH-400×200×9×16
2階		
	H-450×200×9×14	BH-450×200×9×19

小梁リスト	
符号	B1（全断面）
全階	
	H-300×150×6.5×9

大梁継手リスト					
符 号	フ ラ ン ジ			ウ ェ ブ	
	SPL-①	SPL-②	HTB（n1）	SPL-③	HTB（n2）
R階G1	PL-9 200×410	2PL-12 80×410	12-M20	2PL-9 170×200	6-M20
R階G2	PL-9 200×410	2PL-12 80×410	12-M20	2PL-9 170×200	6-M20
2階G1	PL-9 200×530	2PL-12 80×530	16-M22	2PL-9 170×380	12-M22
2階G2	PL-12 200×650	2PL-16 80×650	20-M22	2PL-9 170×380	12-M22



問題 IV 解答 (2023)

部 位	記号	名 称	サ イ ズ	単位	設計数量
柱	C1	形鋼	H-400×200×8×13	m	① 1 70
			H-450×200×9×14	m	② 1 70
			□-300×300×12	m	③ 3 01
			□-300×300×16	m	④ 4 03
		鋼板	PL-9	m ²	⑤ 1 06
			PL-16	m ²	⑥ 0 53
			PL-19	m ²	⑦ 0 53
			PL-22	m ²	⑧ 0 26
			PL-25	m ²	⑨ 0 51
		溶接長さ	すみ肉溶接6mm換算	m	⑩ 6 21
大梁	G2	鋼板	PL-9	m ²	⑪ 2 32
			PL-12	m ²	⑫ 0 52
			PL-16	m ²	⑬ 0 42
			PL-19	m ²	⑭ 2 00
		高力ボルト	M22	本	⑮ 104

鉄 骨 積 算

名 称	形 状・寸 法		計 算			か所	H-400×200 ×8×13	H-450×200 ×9×14	□-300× 300×12	□-300× 300×16	PL-9	PL-16	PL-19	PL-22	PL-25	
[柱]																
		1C1 - 1台														
(シャフト)																
BSAE	PL	25	0.500	0.50	1	1									0.25	
1F 主材	□	300×300×16	3.63		1	1				3.63						
2F 主材	□	300×300×12	2.65		1	1				2.65						
(2階仕口) ダイヤフラム	PL	25	0.360	0.36	2	1									0.26	
主材	□	300×300×16	0.40		1	1				0.40						
2G1 MAIN	H	450×200×9×14	0.85			2				1.70						
ST-1										1.70	2.65	4.03			0.51	

鉄 骨 積 算

名 称	形 状・寸 法		計 算			か 所	H-400×200 ×8×13	H-450×200 ×9×14	□-300× 300×12	□-300× 300×16	PL-9	PL-16	PL-19	PL-22	PL-25	
2G2 フランジ	PL	19	0.200	1.32	2	1							0.53			
ウェブ	PL	9	0.412	1.35		1					0.56					
(R階仕口) ダイヤフラム	PL	22	0.360	0.36	2	1								0.26		
主材	□	300×300×12	0.36		1	1			0.36							
RG1 MAIN	H	400×200×8×13	0.85			2		1.70								
RG2 フランジ	PL	16	0.200	1.32	2	1						0.53				
ウェブ	PL	9	0.368	1.35		1					0.50					
ST-2								1.70		0.36	1.06	0.53	0.53	0.26		

[illegible]

鉄骨積算

6:21

鉄 骨 積 算

名 称	形 状・寸 法	計 算	か所	PL-9	PL-12	PL-16	PL-19								HTB-M22
[大梁]															
	2G2 - 1台														
FLG	PL 19	0.200 5.00	2	1			2:00								
	梁高さ 上下フランジ厚 450 - 19 × 2 = 412														
WEB	PL 9	0.412 5.00		1	2:06										
FSP SPL-1	PL 12	0.200 0.65	4	1	0:52										
SPL-2	PL 16	0.080 0.65	8	1		0:42									
WSP SPL-3	PL 9	0.170 0.38	4	1	0:26										
					1か所当り × 20 × 4	か所 4									
F	HTB M22		80	1											80
					1か所当り × 12 × 2	か所 2									
W	HTB M22		24	1											24
T					⑪ 2:32	⑫ 0:52	⑬ 0:42	⑭ 2:00						⑮ 104	

2023 年度建築積算士試験【二次試験】

Ⅱ 短文記述試験

問題-1

建物の新築において、設計を除く工事の発注方式に、一括発注方式と分離発注方式がある。
それぞれどのような方式か、また、発注者にとってどのような違いがあるか、
建築積算士ガイドブックに準じて、**61文字以上200文字以内**で記述しなさい。

模範回答

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
1	分	離	発	注	方	式	と	は	、	建	築	工	事	、	電	気	設	備	工	事、
2	機	械	設	備	工	事	、	昇	降	機	設	備	工	事	等	を	分	離	し	て
3	そ	れ	ぞ	れ	の	会	社	に	直	接	発	注	し	、	発	注	者	と	契	約
4	す	る	方	式	で	、	公	共	工	事	で	は	広	く	行	わ	れ	て	い	る。
5	一	括	発	注	方	式	と	は	、	上	記	の	工	事	す	べ	て	を	総	合
6	請	負	会	社	に	一	括	し	て	発	注	す	る	方	式	で	、	主	に	民
7	間	工	事	で	採	用	さ	れ	て	い	る	。								
8	分	離	発	注	方	式	は	一	括	発	注	方	式	に	比	べ	、	発	注	者
9	側	の	管	理	業	務	や	リ	ス	ク	管	理	の	作	業	量	が	増	加	す
10	る	。																		

(建築積算士ガイドブック P23)

2023 年度建築積算士試験【二次試験】

問題-2

建築工事における資材単価や工事の複合単価の情報として、価格調査機関の発行している刊行物がある。
内訳書に記載する単価として、それらの刊行物の価格情報を採用する場合の注意事項を、建築積算士ガイドブックに準じて、**61文字以上200文字以内**で記述しなさい。

模範回答

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
1	掲	載	価	格	は	、	あ	る	一	定	の	施	工	数	量	や	施	工	条	件
2	を	前	提	に	調	査	し	た	価	格	と	な	っ	て	い	る	の	で	、	必
3	要	と	す	る	細	目	が	刊	行	物	の	施	工	条	件	等	に	合	致	し
4	て	い	る	か	ど	う	か	確	認	す	る	必	要	が	あ	る	。			
5	さ	ら	に	材	料	の	場	合	は	、	荷	渡	し	場	所	（	工	場	渡	し、
6	店	頭	渡	し	、	現	場	渡	し	等	）	の	条	件	確	認	も	必	要	。
7	掲	載	価	格	は	、	見	積	書	に	直	接	使	用	す	る	こ	と	の	で
8	き	る	調	査	価	格	と	、	公	表	価	格	が	あ	る	。				
9	公	表	価	格	は	、	取	引	条	件	を	よ	り	明	確	に	す	る	こ	と
10	に	よ	り	値	引	き	さ	れ	る	場	合	も	多	い	。					

(建築積算士ガイドブック P223)